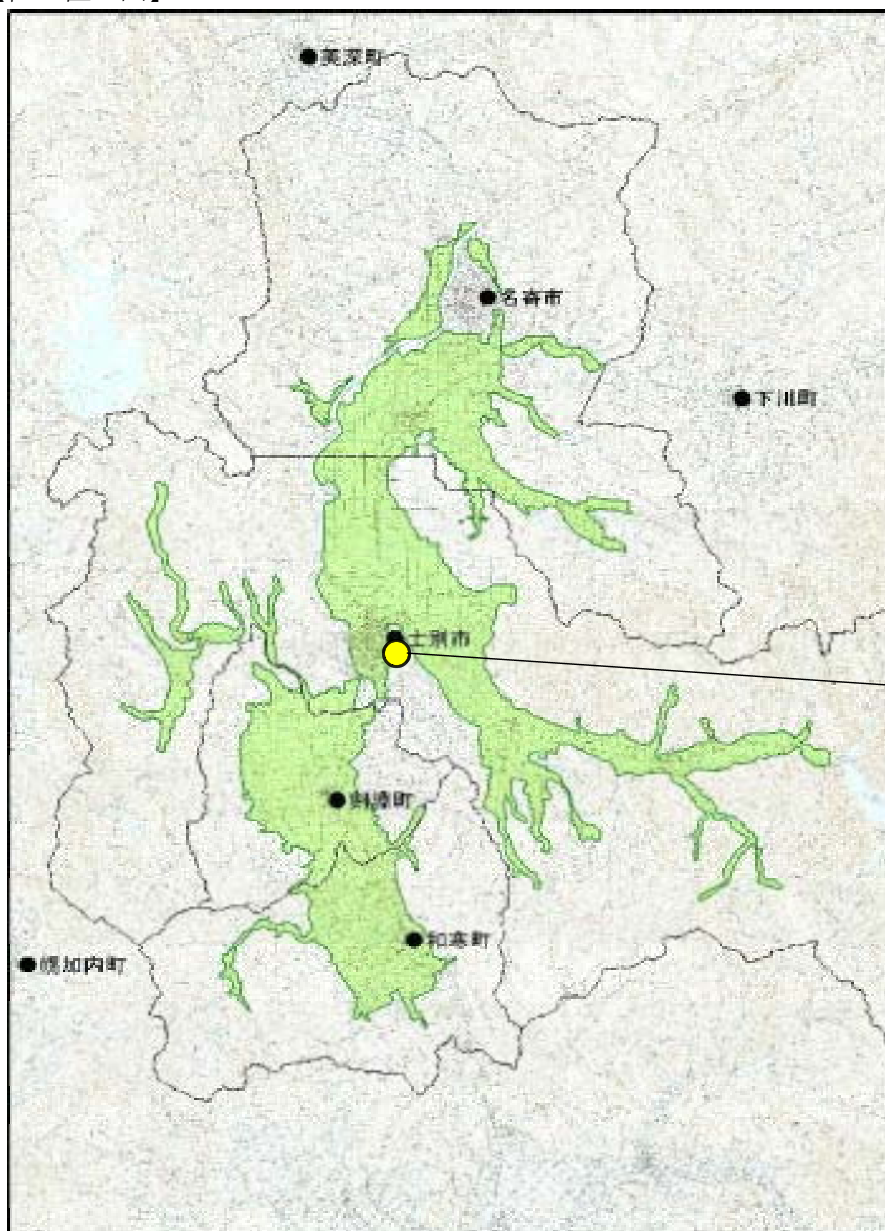


【位置図】



水土里ネットてしおがわ事務所

1. 水土里ネットの概要

- 水土里ネット名：てしおがわ
- 理事長名：藤原 敏正
- 役職員数：役員26名、職員：常勤37名
- 住 所：北海道士別市東4条3丁目1番4
- 連絡先：電話 0165-29-7177
FAX 0165-29-6820
e-mail teshio-s@teshiogawa-lid.com
URL <http://www.htochiren.jp/>
- 受益面積：17,963.5ha
- 組合員数：1,892名（平成21年3月31日現在）

・水土里ネット設立の経緯：

平成9年に、天塩川水系土地改良区連合の上士別・士別川・士別・天塩川・剣淵・和寒の6土地改良区で構成する「天塩川上流地区統合協議会」と、風連、名寄、温根別の3土地改良区が加わり、9土地改良区で「上川北部土地改良区広域統合研究会」が発足した。

その後、関係市町やJAなどの関係団体を交えて度重なる協議を行い、「統合研究会」発足から4年の歳月を経て、平成13年12月8日に合併予備契約書を調印、平成14年4月1日に新生「てしおがわ土地改良区」が誕生した。

合併前の各土地改良区の経緯については以下のとおり。

○天塩川土地改良区

大正2年多寄土功組合設立。昭和25年多寄土功組合から土地改良区へ組織変更。

○名寄土地改良区

明治42年名寄土功組合設立、大正11年名寄太西土功組合設立、大正12年中名寄土功組合設立、昭和4年忠烈布土功組合設立。昭和23年4土功組合が合併し名寄土功組合。昭和26年名寄土功組合から土地改良区へ組織変更。

○風連土地改良区

昭和2年風連土功組合設立、昭和3年風連南土功組合設立、昭和6年西多寄土功組合設立。昭和20年3土功組合が合併し風連土功組合。昭和26年風連土功組合から土地改良区へ組織変更。

○士別土地改良区

明治35年町営灌漑溝設立、大正12年下士別土功組合設立、昭和7年士別西南土功組合設立。昭和21年町営灌漑溝・下士別土功組合が合併し士別土功組合。昭和27年士別西南土功組合から士別西南土地改良区へ組織変更。同年士別土功組合から士別土地改良区へ組織変更。平成3年2土地改良区が合併し士別土地改良区。

○士別川土地改良区

大正3年上士別土功組合設立、大正11年軍馬用地土功組合設立。昭和22年2土功組合が合併し士別川土功組合。昭和26年士別川土功組合から土地改良区へ組織変更。

○上士別土地改良区

昭和6年川南土功組合設立、昭和6年共睦土功組合設立、大正13年東士別土功組合設立、昭和6年甲子土功組合設立。昭和16年川南・共睦土功組合が合併し川南土功組合。昭和21年東士別・甲子・川南が合併し上士別土功組合。昭和26年上士別土功組合から土地改良区へ組織変更。

○剣淵土地改良区

大正5年剣淵中央土功組合設立、大正11年剣淵土功組合設立、大正12年東剣淵土功組合設立、昭和20年剣淵土功組合解散。昭和21年剣淵中央・剣淵・東剣淵土功組合が合併し剣淵土功組合。昭和26年剣淵土功組合から土地改良区へ組織変更。

○和寒土地改良区

大正11年和寒土功組合設立。昭和26年和寒土功組合から土地改良区へ組織変更。

○温根別土地改良区

大正11年北静川土功組合設立、昭和26年北静川土功組合から土地改良区へ組織変更。昭和31年温根別土地改良区設立。昭和32年2土地改良区が合併し犬牛別川土地改良区。昭和35年温根別土地改良区に改称。

2. 地域の特徴

(1) 地理

水土里ネットてしおがわは、北海道の穀倉地帯である上川支庁管内の北部に位置し、道立自然公園天塩岳をはじめとする山々に囲まれた水と緑豊かな田園地帯が広がる士別・名寄の2市、剣淵・和寒の2町を地区としてる。

天塩岳を源とする北海道第2の大河「天塩川」が地区を縦断し、農業用水の多くをこの天塩川とその支流に依存した純農村地帯として発展し、米作を基幹として蔬菜、花卉などの農産物が生産されている。

地質は、平坦地の大部分が埴壤土（一部泥炭地）であり、天塩川に沿っては沖積土、砂壤土が広がっている。

交通網は、JR宗谷本線や北海道縦貫自動車道をはじめ国道。主要道道が接続するなど良好な条件にあり、北海道の中心都市である札幌市までは車で約2時間半、JRで約2時間でアクセスできる。

(2) 社会経済

2市2町の人口は、昭和20年代後半から30年代前半をピーク（約11万人）に減少傾向が続き、平成20年は約6万2千人まで減少し、特に中山間地域等の農村部においては過疎化が深刻となっている。

一方、過疎化・高齢化が進む中であって、豊かな自然環境などを活かした潤いのある都市機能の整備や快適な生活環境づくりを進めながら、定住促進やスポーツ等の合宿、自動車等の試験研究、観光など、地域活性化の取組が進められている。

基幹産業である農業は水稻を中心に、昭和45年の減反政策後は、蔬菜、花卉、豆類などの生産が増加している。農業生産額は、米で843千万円、蔬菜類701千万円、豆・麦類446千万円、その他141千万円となっている。

(3) 歴史・伝統文化

地域の開拓の歴史は、天塩川流域の豊富な水と肥沃な大地、緑の山々など豊かな自然環境に恵まれたことから、明治32年、最北で最後の屯田兵の入植により始まり、先人たちの開拓精神とたゆまぬ努力のもと、農林業を基幹産業として発展してきた。

開拓当初、農業は畑作中心であったが、明治末期から大正初期にかけては天塩川本支流を水源として徐々に水田が開拓された。旧土功組合が設立されてからは水田開発が急速に進み、一方で用水不足が深刻となっていた。

このような地域農業の現状から、昭和42年、地域農業者の悲願であった国営天塩川上流総合かんがい排水事業が実施され、安定した農業用水確保に向けたダムの建設のほか幹線用排水路の整備が進んだほか、道営ほ場整備事業なども併せて実施され、近代的な地域農業の確立が図られた。

(4) 景観・自然環境

東に天塩岳を望み、麓には広大な国有林、中央には天塩川本支流が流れるなど、豊かな森林と豊富な水、肥沃な大地に恵まれている。

気候は、四季の変化がはっきりとした内陸性気候で、5月から9月上旬までは比較的高温多照に恵まれている。気温は、日較差・年較差の寒暖の差が大きく、年較差では60℃を超える年もある。11月中旬頃から降り始める雪は、平地で1m、山間部では2mを超えるなど積雪寒冷な豪雪地帯となっている。

特に夏は、豊かな自然と美しい田園風景が調和した景観を見ることができる。

Ⅱ 21 創造運動取り組み体制

1. 水土里ネットの役員、職員及び組合員の21創造運動取り組みの意識

(1) 「水土里ネット役員」の21創造運動取り組みの意識

水利集落組織の脆弱化等により、末端水利施設の日常管理体制と施設機能の低下が深刻化してきた。このことから、地域連携型の管理体制の強化を図るため、組合員はもとより地域住民など多様な主体の参画を得た管理体制の構築に向けて、役員で構成する工務委員会等で検討を進めるとともに、それぞれの地域では役員がリーダーとなって地域住民等の理解促進に努めている。

また、地区内の農地・水・環境保全向上対策の活動組織と緊密な連携を図り、特に役員は活動組織の指導的立場として、効果の高い活動に貢献している。

合併による広域的な地域の農地・農業用水等を管理していくという新たな水土里ネットの創造に向けては、これまでの役割に加え、行政や関係農業団体等と連携する中で「何ができるのか」などについて理事会等で積極的に議論している。特に、役員は地域代表として選任されていることから、それぞれの地域におけるリーダーとして運動が展開されており、年々活動の輪が広がっている。

(2) 「水土里ネット職員等」の21創造運動取り組みの意識

現在、当水土里ネットでは、地区面積が1万8千haという広範にわたることから管理エリアを9地区に分け、工務部事業第1～3課に分けた体制で運営している。21創造運動は、該当地区の担当職員が主となって連携体制を構築し、役員の積極的な参加を促しながら進めている。

創造運動の実施に当たっては、特に市町村やJAなどの農業関係団体のほか自治会や学校、地域活性化グループなど多様な組織等の連携が必要なことから、職員が積極的にそれらに出向き、理解を得ながら支援・協力を求めている。

また、運動の企画立案に当たっては、ベテラン職員、若手職員からの豊富な経験・知識と新しいアイデアのバランスを重視し、従前より一步の踏み出しができる無理のない活動計画の樹立に努めるほか、特に子どもたちが参加する活動については、楽しみながら農業・農村を理解してもらうような工夫に心がけている。

(3) 「水土里ネット組合員」の21創造運動取り組みの意識

地域農業・農村の活性化や資源保全に向けた組合員の意識は、特に、農地・水・環境保全向上対策がスタートしてからは、地域住民など非農業者を含めた多様な参画を得た活動の必要性の認識が一層高まっている。農業・農村の多面的機能の発揮等に向けた、水路敷地等の植樹・植栽や草刈り・清掃などの景観形成、環境保全活動では、自治会の会合等で組合員が非農業者に対し積極的な参加を呼びかけるなどにより年々活動が広がり、運動に対する理解、意識が高まっている。

Ⅲ 21 創造運動の意義性

1. 21創造運動に取り組むこととなった背景・きっかけ

農家戸数の減少などにより日常管理を行う水利集落が脆弱化し、適正な用水施設の管理体制の大幅な機能低下が懸念されていた。さらには、市街地を横断する用排水路の日常管理を行っていた水利集落組織の脆弱化は、安全に配慮した維持管理に支障をきたすとともに、地域住民からは子ども

たちの転落防止など安全管理対策の充実を求める声が大きくなってきた。これらのことから、行政とタイアップして市街化地域の用水路の埋設化が検討され、農業者と地域住民等の地域連携型の管理体制の推進と用水路埋設地上部の多目的利用、さらに共同参画による地域環境保全活動等について、行政、自治会、地域住民、水利集落組織、水土里ネット等で協議が始まった。

また、平成14年4月に9土地改良区が合併して2市2町を地区とする新生「てしおがわ土地改良区」が誕生したが、この合併の目指す目標は、経費の節減や維持管理の効率化など土地改良区の組織運営の強化はもとより、地域の要請に的確に対応した施設管理と併せ、農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていくため、農業者はもとより地域住民の意向の反映、市町や関係農業団体をはじめ多様な組織との連携を通じた新たな土地改良区の創造が大きな柱となっていた。

農業者をはじめ地域住民からも期待されるこれまでの役割に加えた新たな役割を、土地改良区の役員、職員の共通認識のもとに主体的かつ積極的に取り組んでいく意識の醸成を図るとともに、対外的にも土地改良区に対する理解を深めてもらうため、土地改良区の果たしてきた役割・機能、これから果たしていく新たな役割・機能の積極的なアピールに努めてきたところである。

2. 2 1 創造運動に取り組むに当たって掲げた理念

(1) 基本理念

21創造運動への展開

〈課題〉 農業情勢の悪化・水利集落機能の低下

農家戸数の減少などにより日常管理を行う水利集落が脆弱化



〈影響〉 農業水利施設の機能保全に向けた管理体制の低下

水利施設の日常管理体制が脆弱化し、施設機能保全や多面的機能の低下



〈対策〉 効率的・効果的な施設管理体制の確立

施設管理体制の再構築を図り、関係機関・団体、地域住民等と連携した施設管理体制の強化

2 1 創造運動の展開

「水土里ネットてしおがわ」の創造運動の基本理念

地域の財産、『水』『土』『里』を良好な状態で次世代へ継承する

(内部運動)

～自己確認・自己変革の取組～

- 水土里ネット自身が、「水」「土」「里」を守り育む組織としての役割を再認識
- 地域の要請に対応し、水土里ネットに期待される新たな役割・機能を担うための共通認識の醸成

(外部運動)

～道民・国民への理解の醸成～

- 農業・農村の多面的機能や農地・農業用水等の地域資源保全の重要性について、地域住民等の理解を醸成
- 水土里ネットの果たしてきた役割、これから果たしていく新たな役割・機能について、地域住民等の理解を醸成



新たな水土里ネットの創造

- 地域が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織として発展
- 地域との多様な連携のもとに農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていく組織として発展

2 1 創造運動への反映

「水土里ネットてしおがわ」が目指す合併の効果

①用水配分及び施設管理システムの充実

基幹水利施設を一元的に管理するシステムを構築し、適正な用水配分と管理費の軽減

②組合員サービスの強化

職員の適正配置による維持管理体制の強化と、地図情報システムの活用による組合員サービスの強化

③土地改良事業の計画的かつ効率的な施工

土地改良事業を計画的に取り組み、効率的な事業を推進

④職員体制の強化

事務の合理化により事務・技術職を適材適所に配置し、専門的な能力の向上に努めるとともに、維持管理等での組合員への敏速な対応と適切な事務処理

⑤経常経費の節減

事務の合理化、施設管理の一元化等により運営・維持管理費の節減

⑥組織力の強化

地域農業振興の一翼を担う組織として、より以上に行政（国、道、市町）及び農業団体等との連携を強化

（２）基本理念の決定機関

（該当する口を■に置き換えてください。）

- 水土里ネット総（代）会
- 水土里ネット理事会
- 水土里ネット内部（事務局レベル）

IV 21 創造運動の継続性・発展性

1. 21 創造運動の担当部署

21 創造運動を実践していくため水土里ネット内に担当部署を設けている。

担当部署：（ 人）

リーダーの役職・氏名等：

- 特に担当部署は設けていないが、組織（役職員）として取り組んでいる。
- 職員はいないが、役員が中心となって取り組んでいる。
- その他：

2. 将来の運動を担う後継者を育てるための工夫

現在、工務部が中心となって活動しているが、総務部各課の職員とも連携し運動を展開している。特に、運動の企画立案に当たっては、ベテラン職員からの豊富な経験・知識と若手職員からの新しいアイデアを取り入れながら、従前より一歩踏み出す活動を目指している。

また、道内水土里ネットが取り組んでいる創造運動の先進的な事例を視察研修し、先駆的な活動を参考にしながら活動の広がりにも努めている。

運動の継続性は地域の理解と協力が不可欠であり、若手職員にも自治会や学校など機会あるごとに出向き、連携・協力を求めている。

農地・水・環境保全向上対策では、活動組織の若手農業後継者らに施設の機能診断や補修技術の情報提供などを通じて、水土里ネットとしても積極的な関わりを持ちながら、水土里ネットの役割、運動の継続の必要性などについて理解促進を図っている。

3. 人的な広がりのための工夫

当水土里ネットの創造運動における外部運動は、「地域の財産、『水』『土』『里』を良好な状態で次世代へ引き継ぐ」ことを基本理念に、①一般市民との交流活動②地域社会との連携③学校教育との連携④環境・景観保全活動⑤水土里ネットの役割の一層の発揮⑥多様な広報の展開の6本を柱に、体系的に活動を進めている。

特に、地域との連携では、農業用水・農業水利施設の多面的機能の発揮に向けて、水利集落組織を中心に、学校、自治会、地域住民等、さらには農地・水・環境保全向上対策の活動組織との連携により、景観形成や清掃活動等への参加者が年々増えているとともに活動範囲も広がり、地域として活動に対する理解促進が図られてきたと考えている。

また、地域と連携した施設管理の安全対策等では、地区内の多くの保育園、幼稚園、小学校の保護者会等と管理協定を結び、危険箇所等の迅速な連絡体制が図られてきたほか、末端施設の管理体制の強化では、集落の管理体制機能の低下に対応して地元企業から協力が得られるなど、地域一体となった安全対策の強化、管理体制の構築に向けた意識が広がってきている。

さらに、学校への教育支援としては、小学校の総合学習「農業体験」などこれまでの取り組みに加え、平成20年度からは関係機関等と連携して高校への教育支援パートナーシップ活動に取り組み、協定を結んで農業に関する基礎学習などの特別講座を行うなど、一歩踏み出した活動が展開されている。

4. 継続的な運動の展開

(1) 財源状況

①自主財源等を活用している場合は、該当する口を■に置き換えてください。(複数回答可)

■予算書に活動費の項目立てをしている(理事会の議題に取り上げている)。

□予算には計上していないが、その都度、理事会にかけて支出している。

■今後とも、自主財源を確保できる見込みである。

□活動によっては、参加者から参加費用をいただいている。

(活動名: _____ 会費の額: _____)

②補助事業を活用している場合は、該当する口を■に置き換えてください。

■補助事業の期間中は確保されている。

□補助事業終了後は、自主財源から支出する予定。

□補助事業の終了後は、財源は未定。

③他の機関から財政的な支援を受けている場合は、該当する口を■に置き換えてください。

□他の機関からの支援は当分の間、確保されている。

■他の機関からの支援が終了した場合、自主財源から支出する予定。

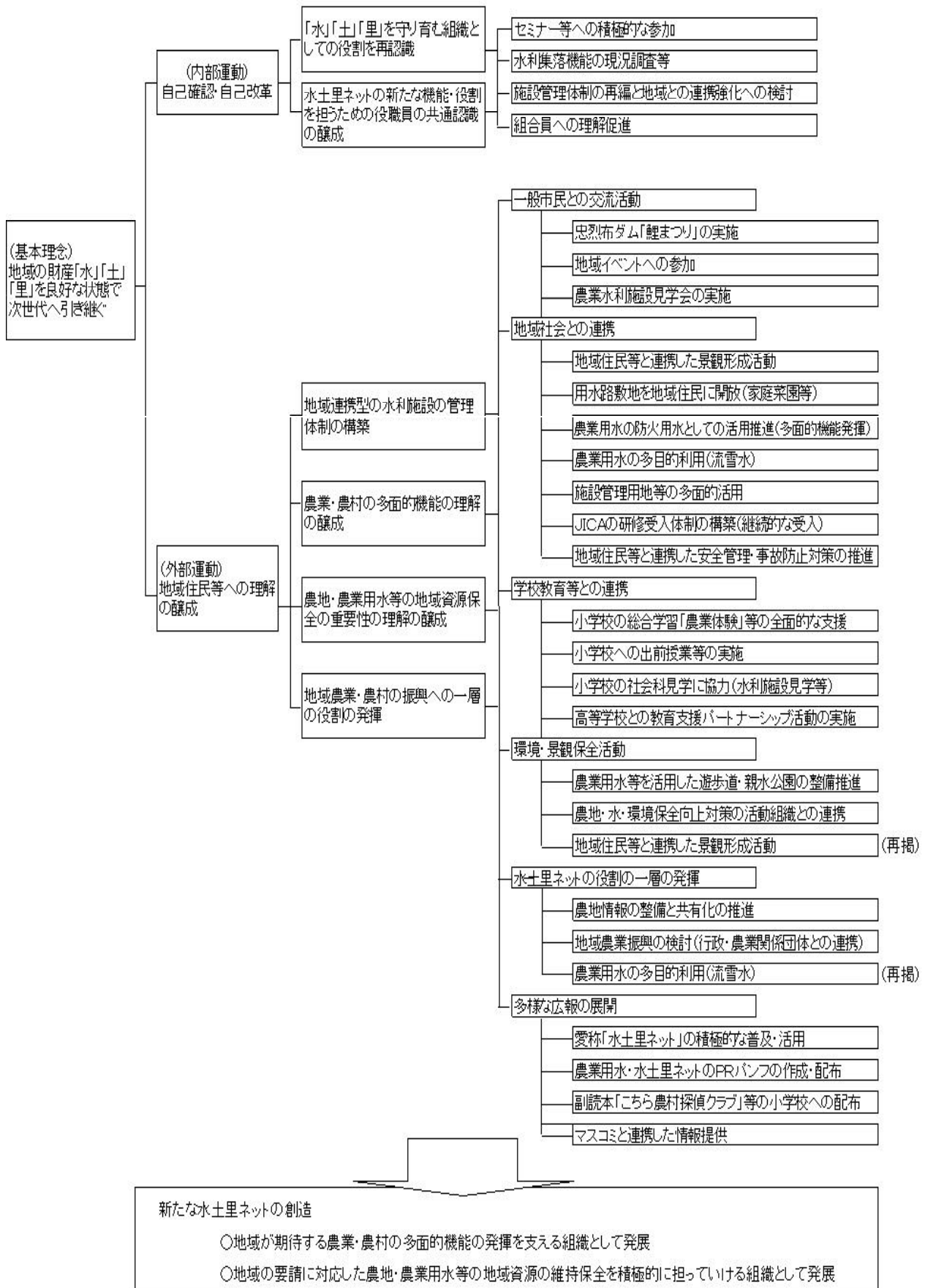
□他の機関からの支援が終了した場合、財源は未定。

(2) 21 創造運動を継続していくための工夫

地域農業を取り巻く環境は、高齢化の進展、農家戸数の減少等が加速する傾向にあり、施設を日常管理する水利集落の機能低下が、水利施設を核とした地域資源の保全、多面的機能の発揮に大きな影響を与えることが懸念される。このことから、農地・農業用水等の地域資源の維持・保全を図っていくためには、地域集落の活動が必須の条件であり、集落機能の回復・保全には地域住民をはじめ企業、行政、農業関係機関・団体など多様な参画を得た地域連携型の管理体制を継続的に構築していく必要がある。当地域では、国営造成施設管理体制整備促進事業(管理体制整備型)を活用しながら21創造運動を通じて、地域を支える農業・農村の多面的機能の発揮や農業の有益性を地域社会に啓発している。特に非農業者等には無理のない、できるところから活動に参画してもらえようと呼びかけを行い、地域の理解を得ながら少しずつ活動を広げていく取り組みを継続している。また、役職員の運動推進体制については、それぞれ業務を抱えている中で、広く連携を図りながら取り組んでいる。

5. 21 創造運動の平成 20 年度までの実績

21 創造運動の理念と活動体系(水土里ネットてしおがわ)



※(再掲)とは、他の活動の項目としてすでに掲載されている場合付した。

(1) 内部運動

◇活動名： 水土里ネットセミナーや疏水サミット等への参加

- ①開始時期：平成14年度より取り組む
- ②活動経費： 100 千円
：内訳 自主財源 年間 100 千円

③活動内容

水土里ネット北海道が主催する21創造運動等をテーマにした「水土里ネットセミナー」に積極的に参加し、先進地事例の取り組みや水土里ネットが求められている新たな役割等の提言を受けて、運動の取組意欲の向上と意識改革を図っている。

また、平成20年度は、札幌市で開催された疏水サミットにも参加し、疏水を核とした地域づくりなどについて研鑽した。



平成20年6月4日に開かれた疏水サミットフォーラム

④これまでの成果

セミナー等での有識者からの提言や事例発表などを通じて、21創造運動を通じた水土里ネットの地域との関わりの重要性を再認識するとともに、先進地事例等を参考に活動のステップアップを図っている。

⑤今後の計画、見通し

継続的な活動、一步踏み出した活動に向けて、学識経験者からの提言等を参考に今後の効果的な活動の検討を進めるとともに、後継者の育成のためにも、若手役員・職員を含めてこれらのセミナー等に積極的に参加していく。

(参考)

○平成20年度「水土里ネットセミナー」における21創造運動関連の講演

テーマ：「地域・環境・景観」

内 容：農地・水・環境保全向上対策と水土里ネットの関わりや多様な地域性を活かした地域づくりなど

○平成20年度「疏水サミット」における21創造運動関連のフォーラム

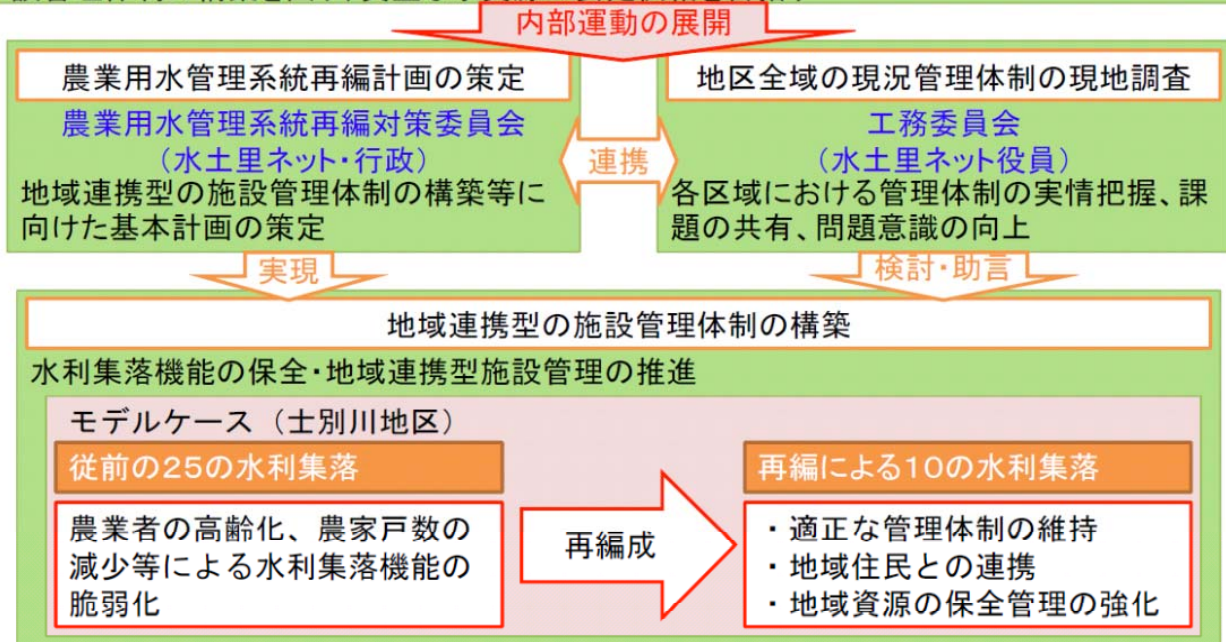
テーマ：「水土が里をつくり 里が水土をまもる」

内 容：疏水の保全活動や疏水を核とした地域づくりなど

◇活動名： 地域連携型の施設管理体制の構築

【水土里ネット合併の基本理念】

組合員の高齢化、後継者不足、水利組織の弱体化が進行していることから、地域連携型の施設管理体制の構築を図り、貴重な水資源の安定供給を目指す



(1) 農業用水管理系統再編計画の策定

①開始時期：平成19年度より取り組む

②活動経費： 6,598 千円
：内訳 補助金 6,598 千円（事業名：土地改良区総合強化対策事業）

③活動内容

当水土里ネットにおける土地改良施設の管理形態は、合併前の9地区の形態を基本としてきたが、管理体制・管理水準の不均衡が生じ、将来の安定的な施設管理への再編が必要となった。

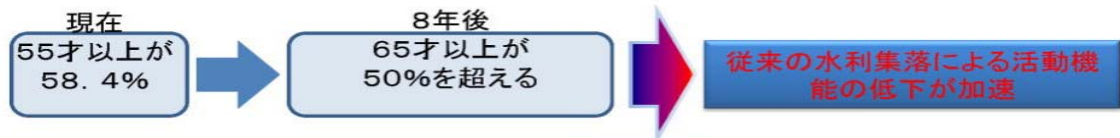
このことから、水土里ネットと下部組織と連携する総括的な管理体制の構築と強化に向けて、「農業用排水路等管理組織整備推進事業」を活用して、地域の維持管理状況及び集落



組合員の約3割を対象とした水利集落機能の現況調査

管理組織の活動状況等の実情把握を目的とした実態調査（水土里ネット組合員を対象）を実施。これを踏まえて、道、関係市町、水土里ネット北海道、当水土里ネットで構成する「農業用水管理系統再編対策委員会」において、持続可能な維持管理体制の構築に向けた「農業用水管理系統再編計画」を策定した。

※農業用水管理系統再編計画の策定



本調査は、当土地改良区全域を対象としており、地域特性（貯水池に営農用水を依存する沢地帯等）によっては顕著な機能低下が進行している可能性がある。

水利集落の施設管理に対する共同管理意識については従前の管理意識を継承する意向が強い結果となった。しかしその共同管理活動は組織の保有する労力的に限界がきている状況にある。

農業用水管理系統再編計画の方向性

- 1) 土地改良区と水利集落が連携する施設管理の再構築及び水利集落の再編
- 2) 土地改良区全域を対象とする水利集落の横断的な「施設管理共同管理計画」の検討
- 3) 水利集落機能保全に係る支援対策の提案

農業用水管理系統再編計画の基本方針

実態調査を踏まえ、基本方針を下記のとおりとし、再編計画を策定

下部組織が連携する施設管理体制の再編計画

下部組織が担う「施設管理方法再編計画」

下部組織機能保全にかかる支援対策計画

【農業用水管理系統再編計画概要】

I. 維持管理体制に関する計画

各下部組織における管理体制の現状について、機能低下がみられる組織の共同管理労力の均一化を図る主旨にて、施設管理体制再編として下部組織の再編を行う計画。

II. 維持管理方法に関する計画

施設管理方法再編として、施設管理体制再編計画による下部組織管理体制の範囲変更により、下部組織の構成要因に加えて管理施設密度に着目し、施設管理体制再編計画とあわせ行う計画。

III. 下部組織機能保全にかかる支援対策計画

施設管理方法再編計画及び施設管理体制再編計画による評価を踏まえ、下部組織機能保全に係る支援対策として各地区における今後の組織の機能保全を図るため、各下部組織の支線的施設の委託管理の拡充及び、下部組織が管理していた各地区幹的施設について施設管理労力の軽減を図るため、土地改良区による直轄管理への管理系統再編を行う「支線施設管理系統再編支援」を行う計画。

④これまでの成果（選考基準4-①～⑥のうち、該当する項目に即して具体的に記述してください。）

実態調査を踏まえ、関係機関・団体で構成する「農業用水管理系統再編対策委員会」で検討を行うことにより、組織間の多様かつ有機的な連携のもとに課題等が共有され、委員会がまとめた再編計画をベースに、地域一体となった施設管理や地域資源の保全強化を具体的に進めている。

⑤今後の計画、見通し

農業用水管理系統再編対策委員会における再編計画をベースに、具体的手法と実現に向けて、当水土里ネットの工務委員会が中心となって地域と調整を進めていく。

(2) 地区全域の現況施設管理体制の現地調査

①開始時期：平成19年度より取り組む

②活動経費： 100千円
 自主財源 100千円

③活動内容

当水土里ネットは平成14年に9水土里ネットが合併したが、施設管理の運営・体制は、合併後の当面の間は合併前の9区域を継承した。しかし、管理形態や管理水準の違い、さらには水土里ネット内においても地区の実情の理解が低く、統括的な管理体制を構築する上で支障をきたしていた。

このため、役員で構成された工務委員会を中心に地区の実情把握と、維持管理コストの低減や基幹水利施設の一元的な管理体制の構築を目指し、現地調査による課題の抽出と効率的な管理体制のあり方について協議を進めている。

④これまでの成果

当水土里ネットの広域的な区域におけるそれぞれの地区の施設管理の実情や課題などが、地区代表の役員で構成する工務委員会の現地調査で明らかになり、地区間の相互理解が深まるとともに、役員の施設管理体制の強化に向けた問題意識の向上と、それぞれの地域で各施設のもつ機能や重要性の理解が高められた。

⑤今後の計画、見通し

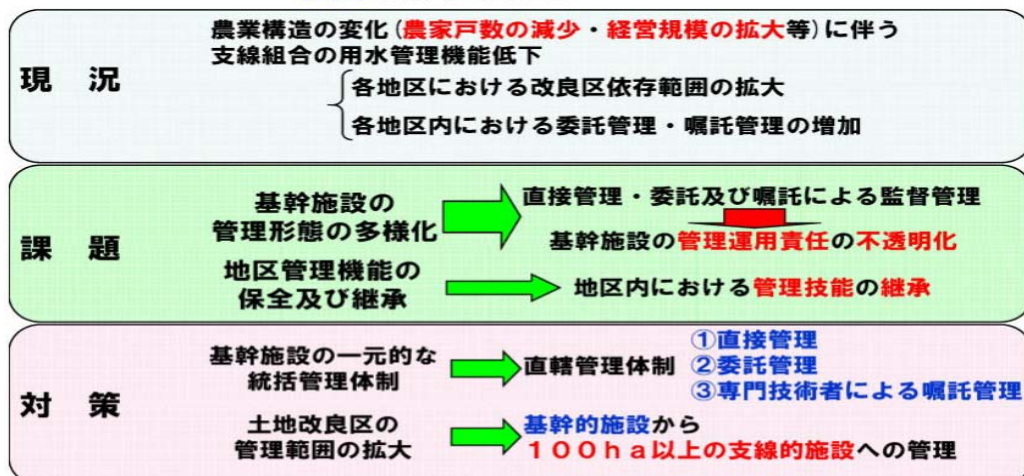
水利集落機能の実態調査や農業用水管理系統再編計画、さらには工務委員会における現地調査等を踏まえ、地域における適正かつ効率的な管理体制を構築について引き続き進めていく。



水土里ネットの工務委員会で、各地区の管理体制の実情把握の現地調査

※現況管理体制における課題と対策の検討

従前の管理形態～土地改良区の管理範囲と地区内の支線組合管理範囲を定めて管理



(3) 施設管理体制の再構築

①開始時期：平成18年度より取り組む

②活動経費：100千円

：内訳 自主財源 100千円

③活動内容（活動状況の写真を添付してください。）

当水土里ネットの土別川地区において、農業用排水施設の管理に係る下部組織が25存在していたが、高齢化・農家戸数の減少等により水利集落機能が脆弱化し、適正な管理体制の維持が困難になってきたことから、地区の組合員から施設管理体制の再編強化が求められた。

このことから、地域をまとめた統括的管理体制の構築と地域連携強化に向けて平成18年度より協議を重ね、現在10組織に再編するとともに、非農家を含めた自治会や企業等との管理協定の締結などの管理体制の強化、さらには農地・水・環境保全向上対策の活動組織との連携を図り、地域一帯となった施設管理体制の構築を進めている。

管理体制の再編などを協議する水利集落のリーダー会議(右)



25の末端施設の管理組織を10に再編し、さらには地域住民等と連携した管理体制の構築を進めている

④これまでの成果

管理組織が統合再編され、さらには地域住民等も含めた管理体制の構築を進めることにより、施設管理や地域資源の保全強化につながっている。さらには、水利施設の多面的機能の役割や重要性などについて地域での理解が深まってきている。

⑤今後の計画、見通し

当地区の取り組みをモデル地区として、他の地区についても管理体制の強化等に向けた検討等を行い、地域一帯となった管理体制の確立を目指していく。

(2) 外部運動

◇活動名： 忠烈布ダム「鯉まつり」

①開始時期：昭和50年から取り組む

②活動内容

3年に1度、当水土里ネットが管理する忠烈布ダムにおいて、堆砂量調査のためのダム湖の水抜きに合わせ、NPO法人「風連まちづくり観光」と当水土里ネットが連携して、湖底の鯉のつかみ取りを行う「鯉まつり」を開催。当日は水土里ネットブースを設け、参加者にパンフレット等を配布して水土里ネットの役割や土地改良施設の多面的機能を啓発するほか、地域農業者グループと連携して農産物の直売も行っている。



忠烈布ダムでの鯉まつりでは、水土里ネットのPRブースを設けるとともに、地場農産物もPR

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名： NPO法人「風連まちづくり観光」

団体の役割： 広報

連携に当たり工夫した点

鯉まつりの開催にあたっては、広報でNPOと連携し、広く周知を図ったところである。実施に当たっては、職員による放流量の微調整や土砂吐ゲートの監視など細心の注意を払い徹底した安全確保を行っている。

⑤活動経費： 30千円

：内訳 補助金 30千円（事業名：国営造成施設管理体制整備促進事業）

⑥これまでの成果

道内各地から多くの参加者が集まり、農業水利施設の持つ多面的機能や水土里ネットの役割などの理解が深まっている。また、会場では地域の農業者グループが野菜の直売所を設け、低価格で農家の顔が見える安心・安全な農産物を販売するなど、生産者と消費者の交流、地域農産物のPRにも繋がっている。

◇年度別参加者内訳

年度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）						イベント等 開催数	
	役員	職員	組員	行政	JA	NPO	計	組員	一般	学生等					計
										小	中	高	小計		
17		5	15			10	20		500					500	1

⑦今後の計画、見通し

この「鯉まつり」は3年に1度の計画で実施しているが、20年度は連携しているNPO法人の業務の都合により実施を見送った。

21年度については、地域住民等から実施を求める声も大きいことから現在調整を行っている。

◇活動名： 地域イベントへの参加

①開始時期：平成13年から取り組む

②活動内容

道開発局や士別市・名寄市が主催する農産物直売フェスタや産業まつりなどの各種イベントに積極的に参加し、農業・農村の多面的機能や農業水利施設、水土里ネットの役割、農地・農業用水等の地域資源保全の重要性などについてパネル展示やパンフレット等を配布して啓発している。また、地元農産物のPRやアンケート調査を実施。特に、農産物直売フェスタはJR札幌駅で開催されることから、地元だけでなく都市部へも活動範囲を広げ、水土里ネットの活動を多方面で幅広く啓発し、都市との交流を図っている。



平成20年9月13日、14日の2日間、JR札幌駅で実施した農産物直売フェスタ



平成20年8月24日に開かれた士別市産業まつりで、パネル展等を実施

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名： 道開発局、士別市、名寄市

連携に当たり工夫した点

道開発局、関係市においても、水土里ネットの活動に理解を得ており、継続的に参画している。

⑤活動経費： 450千円

：内訳 補助金 450千円（事業名：国営造成施設管理体制整備促進事業）

⑥これまでの成果

地域のイベントではアンケート調査も実施しており、水土里ネットの認知度が高まっている。

◇年度別実施状況

	士別市産業フェア(士別市)	なよろ産業まつり(名寄市)	農産物直売フェスタ(札幌市)	朝日じゃんじゃんジュビリー(士別市)	剣淵桜岡湖水まつり(剣淵町)	温根別町夏まつり(士別市)	風連おまつりひろば(名寄市)
18	8月27日	8月27日	9月16～17日	9月10日	8月5日		
19	8月26日	8月26日	9月15～16日	9月9日	8月5日	8月18日	
20	8月24日	8月30日	9月13～14日				9月6日

◇年度別参加者内訳

年 度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）							イベント等 開催数	
	役員	職員	組員	行政	JA		計	組員	来場 者	学生等						計
										小	中	高		小計		
18	5	50							980							6日
19	5	50							1,250							7日
20	5	60							-							5日

※来場者数はアンケート回答者数

⑦今後の計画、見通し

地域住民等からも好評を得ていることから、今後とも水土里ネットの啓発普及、また地域振興のために継続的に行っていく。

◇活動名： **農業水利施設見学会**

①開始時期：平成14年から取り組む

②活動内容

当水土里ネット区域内にある農業水利施設等の多面的な役割・機能を一般市民に広く啓発し理解してもらおうと、土地改良施設見学会を開催。水土里ネットの職員が、ダムや頭首工などの概要を説明し、農業に欠かすことのできない施設の役割、農業用水の多面的機能などを紹介している。



平成20年8月1日に開催した施設見学会。約120名の参加者をダム等に案内し、農業用水、水土里ネットの役割等を紹介

③水土里ネットの役割： 主催、 共催、 協力、 その他

④連携する団体

団体名： 自治会、保育園等

連携に当たり工夫した点

地域住民や親子連れの参加呼びかけに協力を得ている。

⑤活動経費： 650千円

：内訳補助金 650千円（事業名：国営造成施設管理体制整備促進事業）

⑥これまでの成果

毎年100名を超える親子連れや夏休みの小学生、一般市民の参加を得ており、参加者からは継続的な実施を求める声が上がっている。参加者には当水土里ネットが作成した啓発パンフレットやPRグッズを配布。施設見学を通じて、水土里ネットや農業水利施設の役割、農業・農村の多面的機能などの理解が深まっている。

◇年度別参加者内訳

年 度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）							イベント等 開催数	
	役員	職員	組員	行政	JA		計	組員	一般	学生等						計
										小	中	高	園児	小計		
18	3	15					15		57	14			2	16	73	2日
19	3	15					15		93	14			10	24	117	1日
20	3	20					23		90	9			15	24	114	1日

⑦今後の計画、見通し

地域住民等の一層の理解促進に向け、今後ともさらに内容を充実させながら継続的に実施していきたいと考えている。

◇活動名： **地域住民等と連携した景観形成活動**

①開始時期：平成14年頃から取り組む

②活動内容

●名寄市風連町では約20年前から、組合員が雑草対策としてはじめた水田畦畔への芝桜の植栽が地域に広がっており、現在は、農地・水・環境保全向上対策の景観形成活動として位置づけ、水土里ネットとしても地域に呼びかけ、組合員と地域住民による共同活動で用水路敷地等への植栽も行っている。美田に広がる芝桜の景観は、一つの観光スポットとして、観光者の人気を集めるなど、地域を代表する美しい農村景観を形成している。また、景観形成としてだけでなく、水田畦畔や水路法面の土砂崩れ防止や、害虫防止としても高い効果を発揮している



畦畔に芝桜が植えられた水田。現在は、地域住民と連携して、用水路沿いへの植栽も行われている

●士別市中士別町では、組合員が中心となって地域住民にも参加を呼びかけ、排水路敷地にコスモスを植栽。周辺の素朴な農村風景に彩りを添えている。



●水土里ネット主催による施設見学会の際、参加者に協力を求めて施設周辺のゴミ拾いを行っている。これにより農業関係者のみならず参加者に土地改良施設の大切さと景観の美化への理解を呼びかけている。



③水土里ネットの役割：■主催、□共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：組合員、地域住民等

⑤活動経費： -千円

⑥これまでの成果

水田や用排水路沿いを農業生産基盤だけのものではなく目で見ても楽しむ事のできる美しい景観を形成するキャンパスとなっている。また、施設見学会の参加者にゴミ拾いの協力を得

ることによって、景観の美化だけではなく、環境保全の大切さの認識が深まるとともに参加者同士の交流の場にもなっている。

◇年度別参加者内訳（過去3年について整理してください。）

年 度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）							イベント等 開催数
	役員	職員	組員	行政	JA		計	組員	一般	学生等				計	
										小	中	高	小計		
18	18	18	30				66	830	70					900	6
19	18	24	30				72	720	120					840	6
20	18	24	30				72	910	110					1,020	6

⑦今後の計画、見通し

自然豊かな農村景観は、農業生産活動の場であるとともに農村のたたずまいそのものが安らぎを与えてくれるもの。農村と都市の交流を行っていく上でも美しい農村景観を形成・維持していく必要があり、今後とも地域と連携して活動を継続していく。

◇活動名： 用水路敷地を地域住民に開放

①開始時期：平成14年から取り組む

②活動内容

市街地を流れる用水路の
パイプライン化による敷地
の有効活用で、地域住民の
家庭菜園用地として開放。
草刈、清掃は地域住民が行
うなどの協定を結び、地域
連携型の管理を行っている。
る。

また、市民の有志で組織
する「ピカイチふるさとを創る
会」がコンクリート作工物に壁
画を制作し、地域住民の目を楽
しませている。



パイプラインの上部を家庭菜園に利用されている(左)、市民の有志が描いた工作物への壁画(右)



市街を分断する用水路を暗渠化し、安全性の確保と用地の有効利用が図られている

③水土里ネットの役割：■主催、□共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：地域住民、「ピカイチふるさとを創る会」

団体の役割：用地周辺の草刈り・清掃、壁画の補修など
連携に当たり工夫した点

家庭菜園の利用に当たっては、その使用ルールを決めて協力を求めている。

⑤活動経費： 120千円

：内訳 補助金 120千円（事業名：国営造成施設管理体制整備促進事業）

⑥これまでの成果

用水路敷地を地域住民に開放し有効利用してもらうことで、地域連携型の管理を行うという地域住民と水土里ネットとの新たな関わりができるとともに、草刈りや清掃等の協力が得られることで水土里ネットの維持管理の軽減にも繋がっている。

⑦今後の計画、見通し

地域連携型の管理体制の構築に向け、今後とも地域住民への理解の促進と、多様な取り組みを検討していく。

◇活動名： 農業用水の防火用水としての活用推進（農業用水の多面的機能の発揮）

①開始時期：平成17年から取り組む

②活動内容

農業用水の防火用水機能増進を図るため、地区内の用排水路の位置図等を消防組合に提供し、対処できる箇所増加に向けて検討を進めている。



消防組合と対処できる箇所の検討(左)、消防訓練等に農業用水を活用(右)

③水土里ネットの役割：■主催、□共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：士別地方消防事務組合、上川北部消防事務組合

団体の役割：

連携に当たり工夫した点

施設の詳細な情報を提供している。

⑤活動経費： 2千円

：内訳 補助金 2千円（事業名：国営造成施設管理体制整備促進事業）

⑥これまでの成果

農業用水の多面的機能の一層の発揮と、消防事務組合との有機的な連携が図られている。

⑦今後の計画、見通し

今後とも農業用水の多面的機能の一層の発揮に向けて、対応できる箇所の検討を進めていく。

◇活動名： 農業用水の流雪水としての活用（農業用水の多面的機能の発揮）

①開始時期：昭和60年から取り組む

②活動内容

昭和60年に北海道開発庁が「ふゆトピア事業」を創設。当地域においては、昭和63年に旭川開発建設部、旭川土木現業所、士別市の三者により「士別ふゆトピア事業推進協議会」が設立され、流雪溝の事業化を検討。その流雪水として、当水土里ネットが管理する頭首工から用水を取水することとし、取水及び導水のためのゲート堰上げによる頭首工の多目的使用許可協定を士別市と締結した。

冬期間も施設の多面的利用のために水土里ネットが点検・整備を行っている。



頭首工から取水した用水が流れる流雪溝に排雪する地域住民



流雪水を取水する頭首工。協定に基づき冬期間も水土里ネットが管理

※流雪溝について

士別市は冬期間における平均降雪量が7m92cmで、積雪量が平地で1mを超える豪雪地帯であり、生活環境の充実・交通安全の確保を目的につくられた排雪用の水路である。これにより、毎冬市民を悩ませていた道路脇にできる2m程の雪山による交通の支障が解消され、市民の除排雪に要する負担が軽減された。



地域の自主性で、円滑な運営を。

- 流雪溝の利用時間は、決められた投入時刻に役いましょう。
- 利用する方は、安全確認のうえ車や歩行者に注意してスノーダンプ等で投雪しましょう。
- 投雪は一度に、大量の雪を入れず、水の流れを十分確認しながら行いましょう。
- 水の流れが十分でない時や、水位が通常より高いときは投雪を止め、すぐに流雪溝中央監視室(電話3-4242)まで連絡してください。
- 作業にあたっては、投雪用車を使用し、必ず「投雪作業中」のバリケードを立てましょう。
- 投雪口のフタは作業中のみ開閉してください。また作業以外は必ず閉め事故防止に努めましょう。

士別流雪溝非常時連絡体制

```

    graph TD
      Accident[事故発生] -- 発見者電話通報 --> City[士別市警察 TEL 3-0110]
      Accident -- 発見者電話通報 --> Police[旭川警察建設部 士別署維持事務所 TEL 3-3145]
      Accident -- 発見者電話通報 --> Fire[旭川土木建築所 士別出張所 TEL 3-2191]
      Accident -- 発見者電話通報 --> City2[士別市建設部 TEL 3-3121]
      Accident -- 発見者電話通報 --> Center[中央監視室 士別流雪溝監視システム TEL 3-4242]
      Accident -- 自動感知 --> Center
      City -- 電話連絡 --> Center
      Police -- 電話連絡 --> Center
      Fire -- 電話連絡 --> Center
      City2 -- 電話連絡 --> Center
      Center -- 通報操作投雪中止(アナウンス) --> Gate[分水施設 ゲート操作]
      Gate --> User[流雪溝利用者]
      User --> Center
      Center --> Operator[委託処理業者]
  
```

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：士別市

団体の役割：流雪溝の整備等

連携に当たり工夫した点

頭首工の多目的使用許可協定の締結に基づく管理

⑤活動経費： 8,000 千円

：内訳 支援団体 8,000 千円（団体名：士別市から管理委託）

⑥これまでの成果

地域の生活環境整備にも水土里ネットとして係わることにより、行政や地域住民等との一層の有機的な連携が図られている。また、水土里ネットの新たな役割の発揮にも繋がっている。

⑦今後の計画、見通し

地域振興にも貢献する水土里ネットとして、今後とも士別市と連携して継続的に取り組んでいく。

◇活動名： 施設の管理用地等の多面的活用

①開始時期：平成2年から取り組む

②活動内容

●士別市のスポーツ振興への協力として、道開発局・士別市・水土里ネットの3者が士別川幹線用水路と士別川頭首工の管理道路敷地をローラースキー及びジョギングコースとして使用する協定を結び、施設の多目的利用を推進している。

士別市には、日本大学、明治学院大学等やミズノ、丸善食品工業のスキー部等の団体、そして長野県・新潟県等全国各地のスキー連盟が夏季の合宿や練習場所として多くの選手が訪れ、当該施設を利用してローラースキーコース等に利用している。

また、地域住民のジョギングのほか、朝日町陸上競技協会主催の「天塩川さわやかジョギング」や士別市朝日公民館主催の「宣言タイムマラソン大会」が行われ、総合的なスポーツ施設として利用されている。

●当水土里ネットが管理する東士別幹線用水路の管水路区間にスキージャンプ台「朝日三望台ジャンツェ」が併設されており、東士別幹線用水路に附帯する放水路の水を利用して、ジャンプ台の滑走路を冷し、滑走を促すために必要な水の供給を行っている。

夏は朝日スキー連盟主催の全日本サマージャンプ朝日大会と全日本ジュニア&レディースサマージャンプ大会、冬は朝日ノルディックスキー大会が開かれている。

●コース周辺の草刈り・清掃は、組合員等で構成する地域の管理組織が行うなど、きめ細かな維持管理を行っている。

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：士別市教育委員会

団体の役割：士別市におけるスポーツ施設の管理等連携に当たり工夫した点

施設用地の使用協定に基づく管理等

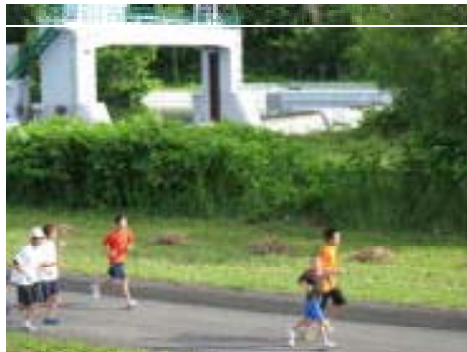
⑤活動経費： -千円

⑥これまでの成果

地域の生活環境整備にも水土里ネットとして係わることにより、行政や地域住民等との一層の有機的な連携が図られている。また、水土里ネットの新たな役割の発揮にも繋がっている。

⑦今後の計画、見通し

継続的に取り組んでいく。



大学や実業団の合宿地として多くの選手が士別市を訪れ、水土里ネットの管理用地をローラースキーやジョギングコースに利用されている



用水路の水を利用し、サマージャンプ台の滑走面への水の供給も行っている

◇活動名： J I C Aの受入体制の構築（継続的な受入）

①開始時期：平成17年から取り組む

②活動内容

J I C A主催の「農民参加型用水管理システムコース」において、平成17年度から上川管内の各水土里ネットと連携し、東南アジアからの研修生を受け入れている。当水土里ネットでは、職員が地域内の農業に係る資料を英訳して提供している。

研修受入に当たり、主催者であるJ I C Aを中心に、上川管内の水土里ネットと受入期間及び内容等を調整し、道内における研修コースの行程を全面的にバックアップしている。

当水土里ネットにおいては、旭川開発建設部の岩尾内ダム管理所及び発電所と連携した多目的ダムの研修や、J Aと連携した地域内の農業経営や流通システム等の研修、水土里ネット組合員を説明員として地域内の用水管理体制の研修を行っている。さらに、教育支援を通じて連携を図っている士別小学校の紹介並びに児童との交流を行うなど、幅広い研修を企画している。

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：J I C A、上川管内水土里ネット、道開発局旭川開発建設部、J A北ひびき、J A道北なよろ、士別小学校

団体の役割：J I C A－主催、上川管内水土里ネット－J I C Aとの受入連絡調整、水管理システムの講師、道開発局旭川開発建設部－岩尾内ダム研修の講師、J A北ひびき・J A道北なよろ－地域の農業経営や流通システム等の研修講師

連携に当たり工夫した点

研修受入体制を整えるため、担当スタッフを専任させて研修内容を熟知させることで、連携団体に対する説明内容を明確化した。それにより各団体の理解度が増し、強固な連携協力体制を構築した。

⑤活動経費： 400 千円

：内訳 主催団体 300 千円（団体名：J I C A）

自主財源 100 千円

⑥これまでの成果

各組織との多様かつ有機的な連携が構築されている。

◇年度別参加者内訳

年 度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）								外部運動への参加者の数（延べ数）								イベント等 開催数	
	役員	職員	組合員	行政	JA	小学 校	関係水土 里ネット	計	研修生	小学 生	学生等					小計		計
											小	中	高					
18	26	14	5	1	3	10	50	109	6	20						26	1	
19	26	40	6	1	5	10	50	138	7	30						37	1	
20	25	40	4	1	5	10	50	135	8	30						38	1	

⑦今後の計画、見通し

17年から継続して取り組んでいるが、J I C Aからは今後の受入についても依頼が来ており、受入体制を強化して対応していく。



用水路の管理について、現地で説明する水土里ネットの職員



地域の用水管理システムについて説明

◇活動名： 地域住民と連携した安全管理・事故防止対策の推進

①開始時期：平成19年から取り組む

②活動内容

当水土里ネットと区域内の幼稚園の保護者会、小学校等において施設管理向上と安全に関する管理協定を結んでいる。園児の通園等の際の保護者、送迎者、通学の児童らが農業用施設の異常や危険箇所を発見した場合に速やかに通報をしてもらうなどの協定を結ぶことにより、地域と連携した施設管理の向上と安全対策を図っている。

また、通水時期には当水土里ネットが幼稚園等に出向き、事故防止の呼びかけを行っている。

③水土里ネットの役割：■主催、□共催、□協力
□その他

④連携する団体

団体名：地区内幼稚園、保育園、小学校、保護者会、PTA、消防組合、なかよしすいろ管理委員会

団体の役割：農業用施設の異常や危険箇所を発見した場合に速やかに通報

連携に当たり工夫した点

地区内の農業水利施設の位置や危険箇所を紹介し、事故防止の徹底を図るとともに、地域ぐるみの安全対策について理解を求めた。

⑤活動経費： 一千元

⑥これまでの成果

19年度では7団体、20年度においては新たに1団体、21年度では新たに6団体と管理協定を締結している。

このことにより、幼稚園の保護者会などとの有機的な連携が図られ、地域の安全対策の意識が高まるとともに、農業水利施設の役割、水土里ネットの役割などについて地域の理解が深まってきている。

⑦今後の計画、見通し

施設管理の向上と安全対策を進めていくためには、地域住民等との連携が不可欠であり、今後とも子どもたちへの事故防止の呼びかけを徹底するとともに、一層の地域連携型の管理体制の構築について検討を進めていく。



幼稚園等の保護者会と協定を結び、施設の異常や危険箇所の速やかな通報等を依頼



幼稚園等の保護者会と協定締結について打ち合わせ

管理に関する協定書

てしおがわ土地改良区理事長（以下「甲」という。）と、剣淵町保育所保護者会々長（以下「乙」という。）とは、甲が管理する剣淵町内の用、排水路施設（以下「施設」という。）について、地域と連携し施設管理の向上と安全を図るために、乙と次のとおり協定を締結する。

第1条 園児の通園等の際に、園児又は園児の送迎者が次のような農業水利施設の状況を発見し、その情報を保育所職員が受けた場合は甲に連絡をするものとする。

- ・ 施設（水路など）が降雨やゴミ詰り等で、水路から水が溢れ出ているを発見した場合
- ・ 施設で危険な遊びを発見した場合
- ・ 施設が破損しているを発見した場合

第2条 甲は、アから情報を得た場合は速やかに現地確認を行い、状況に応じ適正な対応を行なうものとする
又、その対処の結果を乙に連絡するものとする。

第3条 甲はこの園児及び保護者に対し事故防止及び情報の協力を得るための啓蒙を行う。

第4条 管理期間は 5月1日 から 10月31日までとする。

第5条 この協定に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、その都度、甲乙協議して定めるものとする。

この覚書を証するため本書2通を作成し、甲 乙 押印の上、各1通を保有する。

平成 19年 5月 1日

甲 士別市東4条3丁目1番4
てしおがわ土地改良区
理事長 藤原 敏

乙 上川郡剣淵町西町4番1号
剣淵町保育所保護者会
会長 金村 哲也

◇活動名： 小学校の総合学習「農業体験」

①開始時期：平成17年から取り組む

②活動内容

市内の小学校と連携して、食育をテーマとした「田んぼの学校」を開校。組合員の協力を得て、水稻育苗ビニールハウスの見学会から、田植え体験、生育観察、田んぼの生き物調査、写生会、稲刈り体験、収穫したもち米の試食会まで、一年を通して支援を行っている。



水稻育苗見学実施



田植え体験



生育観察と田んぼの生き物調査



用水路の生き物観察



排水路の生き物観察



農村風景の写生会



稲刈り体験



収穫祭

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：士別市立士別小学校、士別市立上士別小学校

団体の役割：

連携に当たり工夫した点

子どもたちが楽しく、興味を引くような農業体験学習メニューを学校に提案。

⑤活動経費： 750 千円

：内訳 補助金 750 千円（事業名：国営造成施設管理体制整備促進事業）

⑥これまでの成果

教育の支援を行っていくことにより、児童やPTA、教師の、地域農業や農地・農業用水等と資源保全の重要性、水土里ネットの役割の理解が深まったと考える。「田んぼの学校」では、子どもたちからは「自分たちが毎日食べているお米ができるまでの大変さなどがわかった」などの感想が寄せられている。

◇年度別参加者内訳

年 度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）							イベント等 開催数	
	役員	職員	組員	行政	JA	北海道 開発局	計	組員	計	学生等						計
										小	中	高	教師	小計		
18	8	40					12			88			8	96	96	8
19	1	10					11			12			2	14	14	2
20	1	10					11			7			2	9	9	2

⑦今後の計画、見通し

農村地域にある総合学習活動は、地域リーダーの育成支援と捉えている。「田んぼの学校」は平成17年度より2校で開催したが、平成19年度以降は、田んぼの生き物調査や出前授業などに重点をおいたため、実施していない。小学校では総合学習時間の短縮などの見直しが行われており、今後においては出前授業に重点を置きながら教育支援メニューを学校に提案し、効果的な活動を目指していく。

◇活動名： **小学校への出前授業**

①開始時期：平成12年から取り組む

②活動内容

市内の小学校と連携して、基幹産業である地域農業の重要性等を子どもたちに伝え、将来を担う地域リーダーの育成支援を行うため、小中学生に水土里ネットを訪れてもらい勉強会を開催するとともに、特に19年度からは、水土里ネット職員が小学校等に出向き出前授業を実施。水土里ネットが分かりやすい資料を作成し、子どもたちに地域農業の歴史や、農地・農業用水等の地域資源の重要性、農業・農村の多面的機能、水土里ネットの役割などを紹介している。



下多寄小学校の児童が水土里ネットを訪れ、勉強会



風連中学校の生徒が水土里ネットを訪れ、勉強会



職員が小学校に出向き、出前授業を実施

③水土里ネットの役割： ■主催、□共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：糸魚小学校、下多寄小学校、士別南中学校、和寒保育園、剣淵保育園

団体の役割：

連携に当たり工夫した点

子どもたちが楽しく、興味を引くような資料を作成し学校に提案。

⑤活動経費： ー 千円

⑥これまでの成果

教育の支援を行っていくことにより、学校との多様かつ有機的な連携が構築され、継続的な実施を求められている。

◇年度別参加者内訳

年 度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）							イベント等 開催数
	役員	職員	組員	行政	JA	計	組員	学生等					計		
								小	中	幼児	教師	小計			
18		10				10		5	4		2	11	11	2	
19	1	10				11		12			2	14	14	2	
20	1	10				11		12		43	5	60	60	3	

⑦今後の計画、見通し

将来地域のリーダーとなる子どもたちに、地域農業の重要性を理解してもらうため、出前授業等を積極的に行っていくこととしている。また、資料作成についても、子どもたちの興味を引くよう一層工夫していく。

(参考)

下多寄小学校の児童に、昭和43年と平成16年を比較した学校周辺の農地の状況を見せ、土地改良事業により狭小な田んぼを大区画に整備し、機械化が進んだ効率的な近代農業の変遷について紹介。また、機械化される前の農業について写真で紹介し、土地改良事業によるほ場の整備と機械化の進展等でいかに効率的な農業が進展したか等について理解を求めた。



昭和43年撮影

平成16年撮影



◇活動名： **小学校の社会科見学に協力（農業水利施設見学会）**

①開始時期：平成12年から取り組む

②活動内容

市内の小学校の社会科見学と連携して、「田んぼの水はどこから流れてくるのか」などをテーマに、農業水利施設見学会を実施。地域のダムや頭首工などに子どもたちを案内し、施設や農業用水の役割等を紹介するほか、事故防止を呼びかけている。

③水土里ネットの役割：■主催、□共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：多寄小学校、下多寄小学校、下士別小学校、上士別保育園

団体の役割：

連携に当たり工夫した点

小学校等に施設見学会を提案し、実施している。

⑤活動経費： 100千円

：内訳補助金 100千円（事業名：国営造成施設管理体制改革促進事業）

⑥これまでの成果

教育の支援を行っていくことにより、学校との多様かつ有機的な連携が構築され、継続的な実施を求められている。

◇年度別参加者内訳

年 度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）							イベント等 開催数	
	役員	職員	組員	行政	JA	北海道 開発局	計	組員	学生等					計		
									小	中	幼児	教師	小計			
18	1	10					12			15			2	17	17	2
19	1	10					12			12			2	14	14	2
20	1	10					10			9		14	3	26	26	2

⑦今後の計画、見通し

農業に欠かすことのできない農業用水、農業水利施設の役割や多面的機能について子どもたちに理解してもらうため、今後とも小学校と連携して取り組んでいく。



子どもたちを頭首工に案内し、施設の役割や水の流れなどを紹介

◇活動名： **高等学校との教育支援パートナーシップ活動**

①開始時期：平成20年から取り組む

②活動内容

道開発局旭川開発建設部や上川支庁などと連携して、地域の高校への「教育支援パートナーシップ活動」に参画している。

「教育支援パートナーシップ活動」は、高校生らに対し農業に関する基礎学力と規範意識を持った優れた産業人の育成を目的に、高校と「教育支援パートナーシップ」協定を締結し、農業関係機関・団体が連携して、特別講座等を行っていくもの。



剣淵高校1年生をダムに案内し、施設の役割等を紹介

当水土里ネットでは、剣淵高等学校と名寄産業高等学校の生徒を対象に、農地・農業用水等に関する特別講義を行うほか、農業水利施設に案内し、地域農業に欠かすことのできない農業用水・農業水利施設の役割などを紹介している。



農業用水の確保のほか多面的な機能を発揮するダムの役割などについて名寄産業高校の生徒に説明

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：旭川開発建設部、上川支庁、剣淵高等学校、名寄産業高等学校

団体の役割：

連携に当たり工夫した点

旭川開発建設部や上川支庁、関係高校とカリキュラム等について十分な打ち合わせを行い、教育支援の充実を図っている。

⑤活動経費： 50千円

：内訳補助金 50千円（事業名：国営造成施設管理体制整備促進事業）

⑥これまでの成果

従来の小学校等への教育支援を高校まで広げることにより、これまで以上に地域との有機的な連携が図られ、生徒たちに、水土里ネットや農業水利施設、農業用水の役割などの理解が得られた。

◇年度別参加者内訳

年 度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）							外部運動への参加者の数（延べ数）							回数 講義 2 現地 2	
	役員	職員	組員	支庁	JA	北海道 開発局	計	組員	学生等					計		
									小	中	高	教師	小計			
20		10		10	6	10	36					152	6	14	172	4

⑦今後の計画、見通し

これから地域を担っていく高校生らの、農業等に関する知識の向上のため、関係機関と連携し継続して実施していくとともに、支援メニューの充実を図っていく。

◇活動名： **農業用水等を活用した遊歩道、親水公園等の整備推進**

①開始時期：平成元年から取り組む

②活動内容

地域住民の安全対策として進められている用水路の暗渠化に伴う用地を利用し、国の事業を活用しながら行政と連携して遊歩道、公園等の整備を進めている。子どもたちや地域住民の憩いの場となり、水土里ネットが管理する水路用地の多面的な活用が図られている。



農業用水のパイプラインの上部が親水公園等に整備され、市民の憩いの場となっている

また、市内幼稚園の脇を流れる用水路の一部を、安全性を確保した親水公園として開放し、夏は子どもたちの遊び場となっている。また、施設周辺の草刈り、清掃等の管理は、幼稚園や保護者、地域住民が行っている。



園児の遊び場となっている親水施設。周辺の草刈り等は地域住民が行っている

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：士別市、なかよしすいろ管理委員会

団体の役割：遊歩道、公園等の整備・管理

連携に当たり工夫した点

用水路の暗渠化に伴う用地の有効利用を市に積極的に提案。

⑤活動経費： — 千円

⑥これまでの成果

市内を流れる用水路の暗渠化により、事故防止等の安全性が確保されたほか、地域住民の憩いの場として市民からも喜ばれている。

⑦今後の計画、見通し

都市と農村の交流を図っていくためにも、水土里ネットの管理用地を活用した美しい景観の形成や市民の憩いの場等の整備・維持に向けて、士別市等と連携を図りながら進めていく。

◇活動名： 農地・水・環境保全向上対策の活動組織との連携

①開始時期：平成19年から取り組む

②活動内容

●区域内の農地・水・環境保全向上対策の活動組織と連携し、農業用排水施設の機能診断等に支援している。各資源保全の活動組織の会合等で、当水土里ネットの職員が、開水路・農道・農用地の機能診断や補修技術について情報を提供し、組合員をはじめ地域住民の技術向上を図っている。



活動組織の会合で、機能診断手法等の情報を提供



開水路の機能診断への指導



開水路の簡易な補修作業

●水路の草刈りなどの保全管理を、農地・水・環境保全向上対策の活動組織と連携した共同作業で実施し、労務・経費の軽減と多様な連携による保全管理に努めている。



農地・水・環境保全向上対策の活動組織と連携した草刈り作業

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：多寄地域資源保全プロジェクト、風連西資源保全活動組織、風連日進資源保全活動組織、風連南資源保全活動組織、中央資源保全活動組織、名風資源保全活動組織、名寄西資源保全活動組織、名寄東資源保全活動組織、ピヤシリ資源保全活動組織、南士別資源保全組合

団体の役割：農地・農業用施設等の機能保全

連携に当たり工夫した点

農地・水・環境保全向上対策の活動組織のリーダーは、水土里ネットの役員や水利組合の組合長などが多いことから、緊密な連携が図られている。

⑤活動経費： 一千元

⑥これまでの成果

機能診断等の知識・情報提供を行うことにより、組合員や地域住民の補修技術の向上と施設の延命化が図られている。また、適正な機能診断が行われることで、地元からの施設補修要望が適確になり、当水土里ネットによる補修工事における工法の検討にも役立っている。

◇年度別参加者内訳（機能診断や補修技術について情報提供）

年度	外部運動に係わったスタッフの数（延べ数）						外部運動への参加者の数（延べ数）							イベント等 開催数	
	役員	職員	組合員	行政	計	地域住民	農業者	学生等				計			
								幼	小	中	教師		小計		
19		20		10		30	50	400						450	10
20		50		25		75	220	1,100						1,320	25

⑦今後の計画、見通し

一層の相互協力・連携の強化を図ることとし、機能診断等の情報提供等を継続的に行っていく。

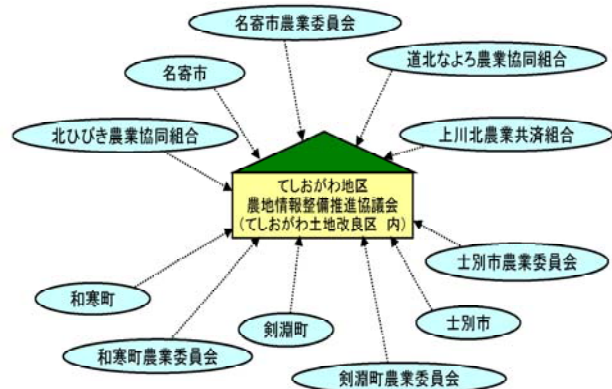
◇活動名： 農地情報の整備と共有化の推進

①開始時期：平成17年から取り組む

②活動内容

名寄市・士別市・剣淵町・和寒町と関係農業団体で、てしおがわ地区農地情報整備推進協議会を設立し、当水土里ネットが事務局となって、GIS（地理情報システム）の導入による農地情報システムの整備・構築を進めている。

農地流動化（集積）や耕作状況の把握、生産調整の推進、土地改良事業等の計画樹立及び施設管理など、農業振興地域に係る農地管理の運用と効率化を図るとともに、農地有効利用の促進、地域の実情を踏まえた高度化された地域水田農業ビジョンの実現に向け、協議会参加団体で農地情報の整備を進めており、情報の共有化や相互利用の推進を図っている。



農地情報システムの整備を進めるてしおがわ地区農地情報整備推進協議会の構成

③水土里ネットの役割：■主催、□共催、□協力、□その他

④連携する団体

団体名：名寄市・士別市・剣淵町・和寒町・道北なよろ農業協同組合・北ひびき農業協同組合・上川北農業共済組合・名寄市農業委員会・士別市農業委員会・剣淵町農業協同組合・和寒町農業協同組合

団体の役割：

連携に当たり工夫した点

地域農業の振興・発展には、関係機関や団体が連携して地域農業の情報を共有化する必要がある、水土里ネットが積極的に関係団体等にその必要性について理解を求めた。

⑤活動経費： 550,200 千円

内訳 補助金 275,100 千円（事業名：産地づくり支援農地情報整備促進事業）
（事業名：元気な地域づくり整備交付金事業）

自主財源 275,100 千円（関係団体負担）

⑥これまでの成果

関係組織と連携したシステム運用に向け検討を重ねているが、今後の地域農業の振興・発展に向けて有機的な連携が図られており、このシステムがこれからの農業への助力として有意義なものとなっている。

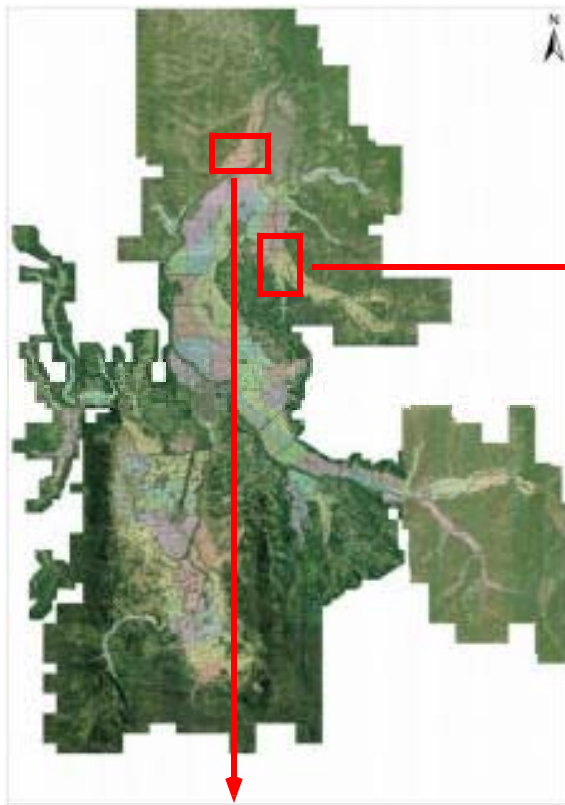
⑦今後の計画、見通し

この農地情報システムを有効に活用していくためには、随時情報の更新が不可欠であり、今後とも協議会を通じて地域農業の発展に向けたシステムの一層の活用を検討していく。



システムの運用等に検討する協議会のメンバー

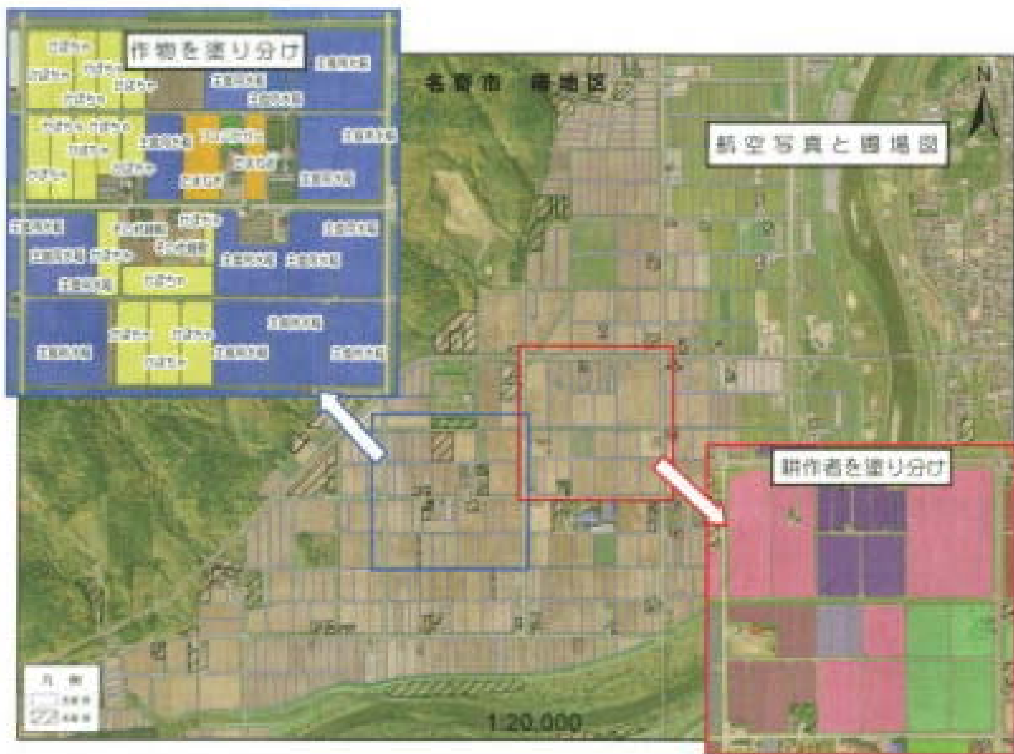
※農地情報システムの整備



水土里ネットてしおがわの水利集落区域図



用水系統図



作物作付状況、耕作者区分図

◇活動名： 地域農業振興の検討（行政・農業関係団体との連携）

①開始時期：平成14年から取り組む（合併後） ※合併前も各水土里ネットで参画

②活動内容

関係市町をはじめとする農業関係機関・団体で構成する様々な協議会等に参画し、地域農業の振興計画や地域水田農業ビジョンの検討、担い手の育成・支援、農業・農村活性化施策の検討などを行っている。

③水土里ネットの役割：□主催、■共催、□協力、□その他

④連携する団体

- 団体名 ・ 士別市、名寄市、和寒町、剣淵町の地域水田農業推進協議会
- ・ 士別市、名寄市担い手育成総合支援協議会
- ・ 士別市農業・農村活性化審議会
- ・ 士別市農政対策協議会
- ・ 名寄市農業振興対策協議会
- ・ 和寒、剣淵「とんぼの未来・北の里づくり」連絡会
- ・ 天塩川水系流域水利用協議会 など

団体の役割：

連携に当たり工夫した点

地域農業の生産基盤を支える団体として、それぞれの地域農業振興計画等の検討について積極的に参画。

⑤活動経費： ー 千円

⑥これまでの成果

地域農業を支えている農地・農業用水等の資源保全に向けて、関係機関・団体の連携が確立されている。

⑦今後の計画、見通し

関係機関・団体の一層の多様かつ有機的な連携のもとに、地域農業の振興、農村の活性化を図っていく。

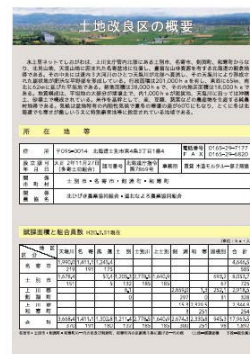
◇活動名： 農業用水・水土里ネットのPRパンフ等の作成・配布

①開始時期：平成14年から取り組む

②活動内容

水土里ネットの事業の状況や21創造運動の取り組みなどを紹介した広報誌を定期的に発行し、全組合員に配布するほか、資料提供用に毎年当水土里ネットの最新情報を掲載した概要書を作成し、地域協議会の会合等で配布している。

また、一般市民向けに、農地・農業用水等の資源保全の重要性や水土里ネットの役割などを紹介したパンフレットや、水土里ネットロゴ入りのタオル等のPRグッズを作成し、様々な運動の際にそれらを配布し、啓発・普及活動を行っている。



毎年作成する水土里ネットの事業概要書

③水土里ネットの役割：■主催、□共催、□協力、□その他

④連携する団体

⑤活動経費： 2,600 千円

- 内訳 補助金 1,600 千円（事業名：国営造成施設管理体制整備促進事業）
- 自主財源 1,000 千円

- ⑥これまでの成果
組合員への広報誌等の配布を通じて、水土里ネットの役割の再認識が図られており、水土里ネットの新たな役割の発揮や、地域農業・農村の多面的機能の保全に向けた地域ぐるみの活動の必要性等について理解が図られてきている。

また、一般市民に対しては、イベントや施設見学会等でPRパンフ等を配布することにより、水土里ネットの役割等の理解促進が図られている。



一般市民向けのPRパンフやグッズ。イベントチラシも手作りで配布している

- ⑦今後の計画、見通し

広報誌やPRパンフの作成に当たっては、分かりやすい、興味を引くような内容となるよう、工夫し、できる限り広く配布していく。

◇活動名： 副読本「こちら農村探偵クラブ」等の小学校への配布

- ①開始時期：平成14年から取り組む

- ②活動内容

全土連が作成した小学生向けの副読本「こちら農村探偵クラブ」を小学校へ配布し、総合学習の手引きとして活用を促している。これらのことから、小学校との交流が図られ、田んぼの学校や施設見学会などに取り組むきっかけとなっている。



- ③水土里ネットの役割： ■主催、□共催、□協力、
□その他

- ④連携する団体

団体名：地域の小学校

- ⑤活動経費： 150千円

内訳 補助金 150千円（事業名：国営造成施設管理体制整備促進事業）

- ⑥これまでの成果

地域内の小学校とはこれまで様々な活動を通して有機的な連携が図られており、副読本や水土里ネットの役割等を紹介する資料を配付することにより、子どもたちはもとより教師の理解も図られている。

- ⑦今後の計画、見通し

出前授業等でも副読本等を積極的に活用するとともに、子どもたちに分かりやすい、興味を引くような内容の資料作成も検討していく。

※各種パンフレット等の配布実績

パンフレット等配布実績		H18	H19	H20	合計	
配布イベント	配布物	配布数	配布数	配布数	配布数	
教育支援パートナーシップ	水土里ネット概要、「土地改良区こんなことをしています」「土地改良区ってどんなことしてるの？」			70	70	剣淵高校
				70	70	名寄農業高校
農業水利施設見学会	「土地改良区こんなことをしています」「土地改良区ってどんなことしてるの？」	150	150	150	450	参加者
士別市産業フェスティバル	「土地改良区こんなことをしています」「土地改良区ってどんなことしてるの？」	500	500	500	1,500	一般市民
名寄市産業まつり	「土地改良区こんなことをしています」「土地改良区ってどんなことしてるの？」	500	500	なし	1,000	一般市民
風連幼稚園 おまつりひろば	「土地改良区こんなことをしています」「土地改良区ってどんなことしてるの？」			300	300	一般市民
幼児及び父母 啓発活動	水土里ネット概要、「土地改良区こんなことをしています」「土地改良区ってどんなことしてるの？」			300	300	剣淵・和寒保育所
札幌 農産物直売フェスタ	「土地改良区こんなことをしています」「土地改良区ってどんなことしてるの？」	1,000	1,000	1,000	3,000	一般市民
社会科学習指導	「土地改良区こんなことをしています」、こちら農村探偵クラブ、土地改良区ってどんなことしてるの？」			50	50	上士別小学校
施設見学会	水土里ネット概要、「土地改良区こんなことをしています」、こちら農村探偵クラブ、「土地改良区ってどんなことしてるの？」			70	70	なかよし水路管理委員会
				50	50	下士別小学校
		10	10		20	多寄小学校
		10	10		20	下多寄小学校
社会科学習指導	水土里ネット概要、「土地改良区こんなことをしています」、こちら農村探偵クラブ、「土地改良区ってどんなことしてるの？」			100	100	糸魚小学校
防火用水機能の啓発	水土里ネット概要、「土地改良区こんなことをしています」			10	10	上川北部消防事務組合
				10	10	士別地方消防事務組合
各自治会への啓発活動	水土里ネット概要、「土地改良区こんなことをしています」			800	800	名寄・士別・剣淵・和寒の各自治会
農業用施設の多面的機能の啓発活動	水土里ネット概要、「土地改良区こんなことをしています」、こちら農村探偵クラブ、「土地改良区ってどんなことしてるの？」			30	30	中士別小学校
				50	50	武徳小学校
				40	40	中多寄小学校
				40	40	温根別小学校
広報てしおがわの配布	広報	2,100	2,000	1,900	6,000	全組合員
田んぼの学校	水土里ネット概要、「土地改良区こんなことをしています」、こちら農村探偵クラブ、「土地改良区ってどんなことしてるの？」	50			50	士別小学校
鯉まつり	「土地改良区こんなことをしています」、「土地改良区ってどんなことしてるの？」	100			100	一般市民

V 運動の成果

1. 関係機関との連携状況（ ）内の1から8に○をつけてください。複数回答可

関係機関名	連携の状況	連携の内容	今後の連携の見通し	凡 例
町内会・自治会	① 2 3 4	⑤ 6 7 8	⑨ 10 11 12	<p>◆ 連携の状況</p> <p>1. 積極的に連携できた</p> <p>2. 一定の協力が得られた</p> <p>3. 今回は連携できなかった</p> <p>4. 全くない</p> <p>◆ 連携の内容</p> <p>5. 共催、協賛、後援</p> <p>6. 活動計画樹立の助言を得る</p> <p>7. 人材派遣</p> <p>8. 資金援助</p> <p>◆ 今後の連携の見通し</p> <p>9. 積極的に連携していく</p> <p>10. その都度協議していく</p> <p>11. 今後連携の可能性あり</p> <p>12. 全くない</p>
N P O	1 ② 3 4	⑤ 6 7 8	9 ⑩ 11 12	
教育機関	① 2 3 4	⑤ 6 7 8	⑨ 10 11 12	
マスコミ	1 ② 3 4	5 ⑥ 7 8	9 ⑩ 11 12	
農 協	① 2 3 4	⑤ 6 7 8	⑨ 10 11 12	
市 町 村	① 2 3 4	⑤ 6 7 8	⑨ 10 11 12	
都道府県 水土里ネット	① 2 3 4	5 ⑥ 7 8	⑨ 10 11 12	
都 道 府 県	① 2 3 4	⑤ 6 7 8	⑨ 10 11 12	
国	1 ② 3 4	⑤ 6 7 8	⑨ 10 11 12	
その他（ ）	1 2 3 4	5 6 7 8	9 10 11 12	

2. 水土里ネットや土地改良施設の役割、それらに支えられている農業農村の多面的機能の重要性について地域住民等の理解の程度について

地域住民など多様な参画を得た農業水利施設見学会や植樹・植栽活動、安全管理・事故防止対策の推進に向けた協定の締結、学校と連携した教育支援活動などの継続的な実施を通じて、確実に水土里ネットや水利施設の役割、農業・農村の多面的機能について理解が浸透し、活動に対する参加・協力が年々増している。

特に、地域全体で農業用水や農業水利施設の保安全管理を行っていくという意識が高まってきており、幼稚園や小学校等との管理協定の締結や、農地・水・環境保全向上対策の活動組織との連携が進展している。

3. 運動が果たす施設の管理や地域資源の保全の強化について

集落機能の低下から、行政や農業関係団体と連携して、施設管理体制の再編強化に向けて、地域の合意形成を図った管理体制の構築と地域連携強化を進めている。非農家を含めた自治会等との管理協定の締結や農地・水・環境保全向上対策の活動組織等との連携により、地域住民等を含めた管理体制の構築が確立されてきており、施設管理や地域資源の保全強化に繋がっている。

4. 水土里ネットの地域づくりへの関わりについて

地域農業の振興・発展には、関係機関や団体が連携して地域農業の情報を共有する必要がある。農用地に係る情報の整備に向けては、当水土里ネットが中心となり、関係市町、農業委員会、農業協同組合、関係共済組合等が連携して進めており、情報を共有化することにより地域水田農業ビジョンの円滑な推進や、将来の地域づくりの検討に大きく役立っている。

また、当水土里ネットでは、地域水田農業推進協議会や担い手育成総合支援協議会、また、各種農業振興対策等に向けた検討協議会などにも参画し、今後の地域活性化や農業振興等の検討にも大きく関わっている。

5. 農地・水・環境保全向上対策への関わりについて

(1) 地区内の実施状況

①実施地区数 38カ所

②実施面積 22,851 ha

③活動組織の構成

水利集落を基本として地区を設定し、構成員については、農業者、非農業者も含めた自治会、JA、水土里ネット、学校などの地域が一体となった取組みを進めている。

④活動の特徴

地域の農地、農業用排水路、農道等の資源や農村環境の良好な保全活動を、農業者ばかりでなく地域住民など多様な参加により行うことで、農業者の労力負担が軽減させるとともに、集落全体の結束が高まっている。

⑤水土里ネットの関わり

農地・水・環境保全向上対策の活動組織の地区はすべて水土里ネットの地区と重複している。水土里ネットでは、水利施設の機能診断や補修技術の助言等の支援を行うほか、活動組織のリーダーは水土里ネットの役員や支線水利組合の組合長等が多いことから、水路の草刈り、清掃等の活動においては緊密な連携を図っている。

(2) 水土里ネットの取り組み

農業用施設の開水路において、配水操作を取り組んでいる組織については、かんがい期前に水土里ネットが作成した配水計画に基づき計画的な水利用についての助言指導を行うほか、支線分派等の配水操作を行うための技術的指導を行い、実施状況の見回り・点検等も行っている。

また、活動組織が行う水路の簡易な補修等に向けては、機能診断や補修技術についての助言も行っている。これらの活動を通じて、活動組織の適正な機能診断が理解されることにより、水土里ネットに対する施設補修要望が的確となり、ストックマネジメント事業の計画的な推進に繋がっている。

6. 2 1 創造運動を通じた地域農業振興への取り組みについて

- 土地利用調整 水利用調整 情報収集及び提供 直売所等への関与
営農支援 実証栽培 土づくり 環境保全型農業の推進
営農指導 その他：
その他：

7. 運動の成果のまとめと今後の展望

地域と連携する施設管理体制の構築に向けた取り組みは、脆弱化する集落機能の回復・保全に効果が現れている。それは地域住民や行政、自治会、地域の企業などと連携した地域資源の共同管理の推進であり、これまでの21創造運動の活動を通じて、農業者のみならず地域が連携して農地・農業用水、農業水利施設等を保全する必要性についての理解が進み、地域ぐるみでの農業・農村の多面的機能の保全に繋がっている。

当水土里ネット内の土別川地区において、管理形態の再編成と水利集落機能の保全を総合的に検討・協議した結果、水利集落組織を25から10に統合再編するとともに、非農家の参加も得た地域連携型の管理体制が構築されたことは大きな成果である。

現在、この地区をモデルに、地域全体の管理体制の強化に向けて役職員一丸となって取り組んでいるところであり、従来の水利集落組織が管理する範囲の一部を水土里ネットが直接管理するなどの集落組織の負担軽減も検討している。

また、農業水利施設の維持・保全など地域資源保全の重要性については、一般市民の参加を呼びかけての施設見学会や学校教育支援などを通して理解が浸透し、特に、幼稚園や小学校などと施設の安全管理体制の構築に向けた管理協定の締結が進むなど、地域一帯となって保全体制が確立されてきている。

今後においては、地域の協力を得ながら21創造運動の一層の展開を図り、水利集落機能の体制強化と水利施設等の予防保全・機能強化を図り、地域と調和する地域連携型の管理体制のさらなる強化を進めていく。また、地域資源の保有する多面的機能の一層の発揮に向けて、地域のこれまで以上の理解促進を図り、集落機能活性化のための継続的な運動を展開していく。

VI その他特記事項

◇ 21創造運動の推進に当たりご意見ご要望があれば記述してください。

北海道の農業・農村は、豊かな自然環境と広大な土地資源を活かし、我が国における食料の安定供給をはじめ国土・環境の保全、美しい景観の形成など多面的な機能の発揮を通じ、幅広い産業と結び付いている。

しかしながら、WTO農業交渉や日豪EPA交渉など農業の国際化が進展する中で、本道農業・農村は、農家戸数の減少をはじめ農業従事者の高齢化など多くの課題に直面している。

このような中で、国は、国内の食料自給力・自給率の向上などを旨とした新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定に向けた検討を進めているが、国際的な食料事情を踏まえた食料供給基盤の強化等を図るためには、食料自給率向上に向けた基盤・条件整備の推進、担い手の育成と農地の有効利用、農業用水の安定的供給の確保、活力ある地域づくりなど各般にわたる施策の着実な実施が肝要であり、とりわけ、農業農村整備事業で整備された「水」「土」など地域資源の保全に対する制度の一層の充実が重要であると考えます。

当水土里ネットにおいても、国営造成施設管理体制整備促進事業（管理体制整備型）や農地・水・環境保全向上対策等の施策と連携しながら21創造運動を積極的に推進しており、地域ぐるみでの地域資源の保全、多面的機能の発揮に向けて、広く理解促進を図っているところである。

しかし、農村部における過疎化、高齢化の進行が著しい地域において、今後ともこれらの活動を積極的に推進していくためには、国による一層の支援が不可欠であり、社会共通資本として位置づけられている農地・農業用水等の資源を保全するための一層の施策の充実が望まれる。

21世紀土地改良区創造運動

～地域連携型の施設管理と
多面的機能の保全をめざして～

北海道
水土里ネットてしおがわ

2. 水土里ネットてしおがわの概要

1. 合併

平成14年4月1日に9水土里ネットが合併して、新生「水土里ネットてしおがわ」が発足

2. 関係市町村

士別市・名寄市・剣淵町・和寒町

3. 受益面積 17,963ha

4. 組合員数 1,892名

5. 役職員数 役員26名、職員37名

6. 地域の特徴

天塩岳を水源とする北海道で2番目の大河「天塩川」が縦断する純農村地帯で、水稻を中心に、蔬菜、豆、麦、花きなどを生産

※施設の管理

ダム10箇所、ため池17箇所、頭首工41箇所、

揚水機場37箇所

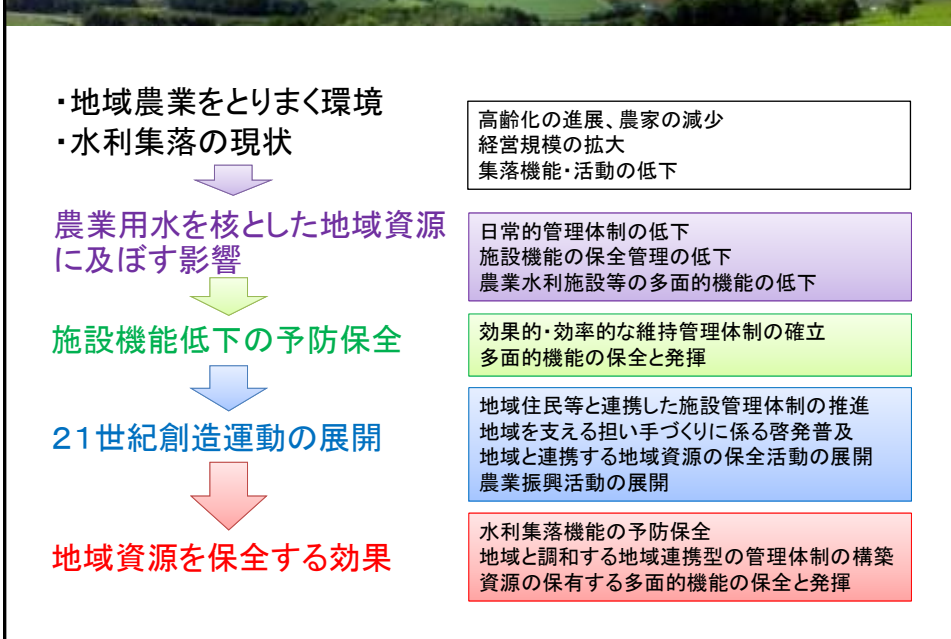
幹線用水路409km、支線用水路1,266km

排水路1,230km、農道719km

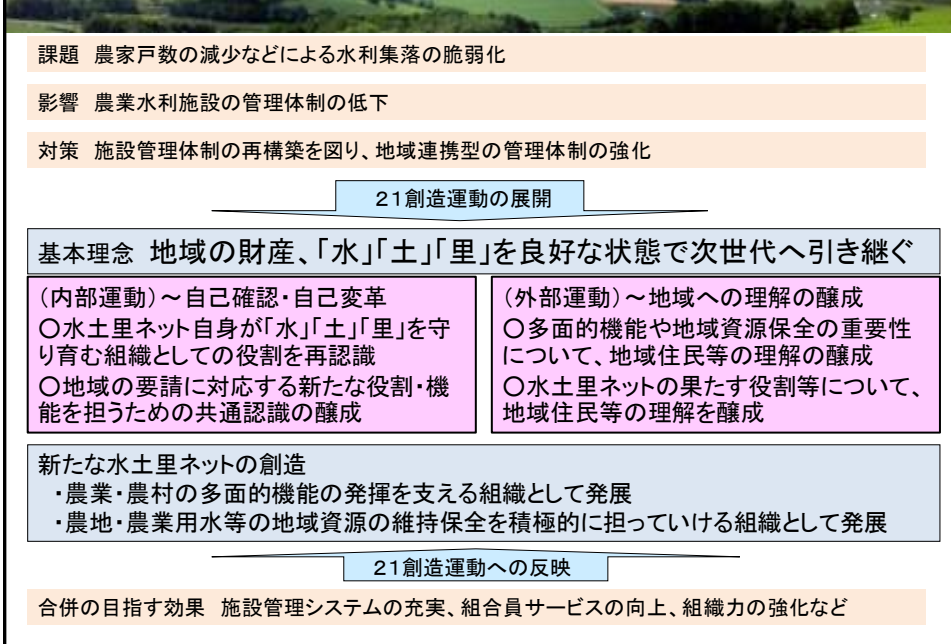
水土里ネット
てしおがわ
管理区域



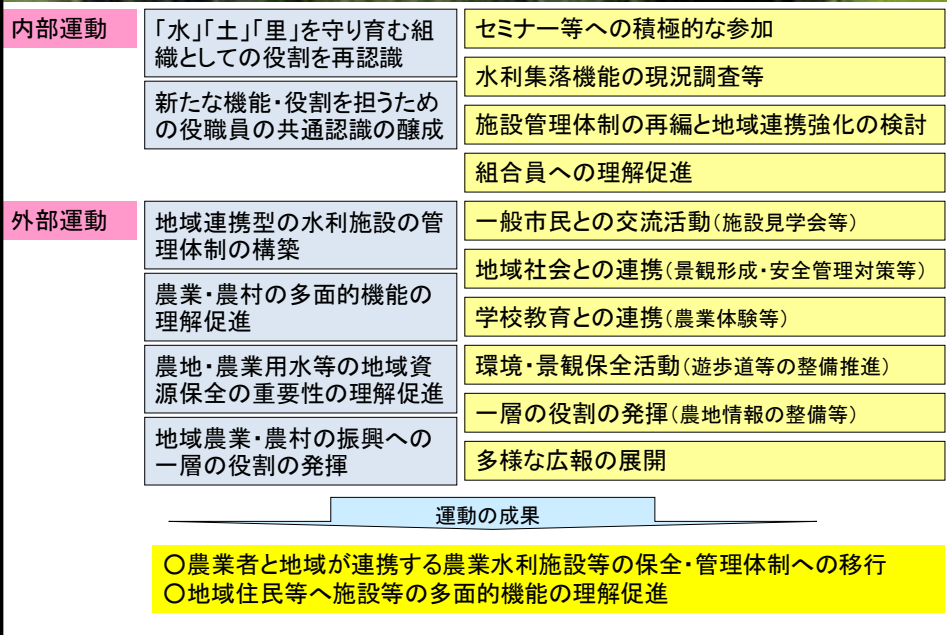
3. 21創造運動取組の背景・きっかけ



4. 21創造運動の理念



5. 21創造運動の全体構成



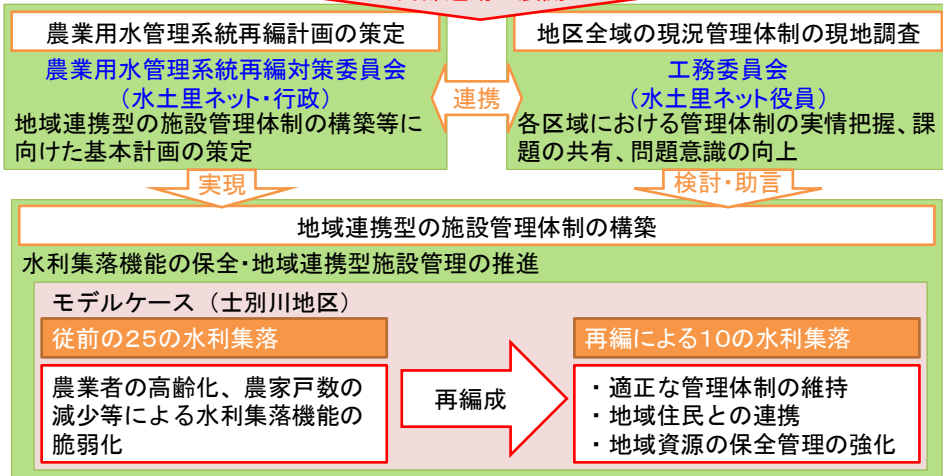
6. 内部運動の取組

地域連携型の施設管理体制の構築

【水土里ネット合併の基本理念】

組合員の高齢化、後継者不足、水利組織の弱体化が進行していることから、地域連携型の施設管理体制の構築を図り、貴重な水資源の安定供給を目指す

内部運動の展開



7. 外部運動の取組(1)

環境・景観保全活動、親水公園等の整備推進

地域住民等と連携した農村景観形成活動に取り組むほか、行政と連携し水路用地を活用した親水公園等の整備を推進



地域住民等に呼びかけて、美しい農村景観の形成活動に協力を求めることにより、農業・農村の多面的機能や土地改良施設の大切さなどについて理解が深まってきている

8. 外部運動の取組(2)

地域住民等と連携した安全管理・事故防止対策の推進

地区内の幼稚園の保護者会や小学校等と、施設管理向上や安全に関する協定を締結



水土里ネット

園児の送迎者や児童らに、施設の異常や危険箇所を発見した場合は速やかに通報

協定

幼稚園等

用水路の一部を親水施設とし開放。草刈り・清掃等は地域住民に依頼

幼稚園の保護者会等と有機的な連携が図られ、地域の安全対策の意識が高まるとともに、施設や水土里ネットの役割の理解が高まってきている

9. 外部運動の取組(3)

学校教育等との連携(地域のリーダーの育成支援)

小学校等の総合学習支援や出前授業の実施



高校との教育支援パートナーシップ活動の実施

関係機関と連携して、高校と「教育支援パートナーシップ」協定を締結。当水土里ネットでは農地・農業用水等に関する特別講義や施設見学会などを実施



次代を担う子どもたちに、農業・農村の多面的機能や、農地・農業用水等の地域資源の保全の重要性などを理解してもらうため、学校教育との連携を継続的に実施していく。

10. 外部運動の取組(4)

農地情報の整備と関係団体等との情報の共有化の推進

当水土里ネット内に「農地情報整備推進協議会」を設置し、行政やJA、農業委員会、ノーサイなどと連携して、農地情報の整備、共有化を推進

農業振興地域に係る農地・農業用水等の管理の運用と効率化

・担い手への農地集積など農地の利用調整
・土地改良事業等の計画樹立
・生産履歴の管理や生産調整など幅広く活用

地域農業振興計画等へ反映



農地情報システムを関係団体が共有することにより、今後の地域農業振興施策の効率的な検討と対策の実施が可能

11. 運動の成果

脆弱化する農村機能の回復・保全

集落機能の低下による施設管理の現状調査



課題を共通認識し、管理形態と水利集落機能の総合的な検討



地域と連携する施設管理体制への移行

地域住民など多様な連携による施設の管理体制構築の推進



地域住民等との管理協定の締結や清掃活動等への参加の増加



地域資源保全の重要性等の理解促進

施設見学会や学校教育支援など幅広い啓発活動の推進



農業用水や水土里ネットの役割等の理解が浸透



12. まとめ

社会共通資本の農地・農業用水等の地域資源の維持・保全に向けて

地域ぐるみの活動を目指した21世紀土地改良区創造運動の一層の推進



次代を担う子どもたちの未来のために！！